



令和4年度  
シラバス  
～syllabus～

---

兵庫県立和田山高等学校

# 目 次

1	令和4年度入学生 教育課程	1
2	令和3年度・令和2年度入学生 教育課程	17
	国語	18
	地理歴史・公民	27
	数学	40
	理科	48
	保健体育・体育	55
	芸術	62
	外国語	68
	商業	76
	家庭	94
	総合的な探究の時間	104

# 令和4年度入学生 教育課程











教科	保健体育	年次	1年次	系列	—
科目名	体育 (単位数： 2 )				
履修条件	必履修				
対象生徒	1年次				
学習目的	健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に応じた運動の計画を立て、生涯を通じて運動を継続する力を養う。				
講義の割合					
講義以外の主な活動	問題演習      グループ学習      フィールドワーク      実習・実験      レポート作成 その他の特徴的な活動【 体育実技 】				
授業の概要	学期	分野	学習内容	キーワード (一部抜粋)	
	1学期	「体づくり運動」 選択Ⅰ 「器械運動」 「陸上競技」 「体育理論」	集団行動・新体カテスト マット運動・跳び箱運動 ハードル走 運動スポーツの文化的特徴	人間にとって動くとは スポーツの始まりと変遷	
	2学期	選択Ⅱ 「球技」 「武道」 「陸上競技」 「体育理論」	ベースボール型：ソフトボール 柔道 長距離走 運動スポーツの文化的特徴	文化としてのスポーツ オリンピックと国際理解	
	3学期	選択Ⅲ 「球技」 「体育理論」	ゴール型：バスケットボール ネット型：バドミントン 運動スポーツの文化的特徴	スポーツと経済 ドーピングとスポーツ倫理	
観点別 評価項目	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	実技テスト 定期考査 小テスト レポート		定期考査 小テスト レポート ワークシート	小テスト レポート 授業に取り組む姿勢 振り返りシート	
備考					

教科	保健体育	年次	1年次	系列	—
科目名	保健 (単位数： 1 )				
履修条件	必履修				
対象生徒	1年次				
学習目的	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。				
講義の割合					
講義以外の主な活動	問題演習      グループ学習      フィールドワーク      実習・実験      レポート作成 その他の特徴的な活動【 体育実技 】				
授業の概要	学期	分野	学習内容	キーワード (一部抜粋)	
	1学期	現代社会と健康	1 日本における健康課題の変遷 2 健康の考え方と成り立ち 3 ヘルスプロモーションと健康に関わる健康づくり 4 健康に関する意思決定・行動選択 5 現代における感染症の問題 6 感染症の予防 7 性感染症・エイズとその予防	疾病構造 生活の質、生きがい ヘルスプロモーション 意思決定・行動選択 新興感染症・再興感染症 感染源、感染経路、免疫 性感染症、エイズ	
	2学期	現代社会と健康	8 生活習慣病の予防とその回復 9 身体活動・運動と健康 10 食事と健康 11 休養・睡眠と健康 12 がんの予防と回復 13 喫煙と健康 14 飲酒と健康 15 薬物乱用と健康	生活習慣病 運動、生活活動 食事のリズム レム睡眠、ノンレム睡眠 がん検診 受動喫煙、健康増進法 急性アルコール中毒 大麻、依存状態	
	3学期	現代社会と健康 安全な社会生活	16 精神疾患の特徴 17 精神疾患への対応 1 事故の現状と発生要因 2 交通事故防止の取り組み 3 安全な社会の形成 4 応急手当の意義と救急医療体制 5 心肺蘇生法 6 日常的な応急手当	うつ病、ストレス セルフケア 不慮の事故、交通事故 自動車損害賠償責任保険 率先避難者、自助、共助 心肺蘇生、AED 胸骨圧迫、死戦期呼吸 熱中症	
観点別 評価項目	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査 実技テスト		定期考査 授業に取り組む姿勢 ワークシート	授業に取り組む姿勢 ワークシート	
備考					















教科	産業社会と人間	年次	1年次	系列	—
科目名	産業社会と人間 (単位数： 2 )				
履修条件	必履修				
対象生徒	1年次				
学習目的	社会人に必要な力や知識を身に付け、				
講義の割合					
講義以外の主な活動	問題演習 <u>グループ学習</u> <u>フィールドワーク</u> <u>実習・実験</u> <u>レポート作成</u> その他の特徴的な活動【 発表会・外部講師からの講話 など 】				
授業の概要	学期	分野	学習内容		キーワード (一部抜粋)
	1学期	社会参画力	働くこととは 仕事の決め方 お金のこと 就職(進学)するには 科目選択ガイダンス 自己理解と他者理解 キャリアトークカフェ 企業見学		職業の三要素 生涯賃金 正規雇用と非正規雇用 賃金格差 退職金と福利厚生
	2学期	販売実習基礎	販売実習とは お金の大切さとコミュニケーション 接客実践 マナー講習会 ロールプレイング		礼儀作法 販売実習 お金の取り扱い 接客
	3学期	自己表現	卒業生講話 ライフプラン作成・発表 1年間の振り返り まとめ 発表会		お金の運用 ライフプラン アウトプット
観点別 評価項目	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	学習シート まとめシート		学習シート 発表資料		ワークシート 授業に臨む態度 プレゼンテーション
備考	特になし				

令和3年度・令和2年度入学生  
教育課程

教科	国語	科目名	国語表現	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	国語総合を履修した生徒（3年次生全員）		
進路	すべての進路に対応				
学習目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>書いて伝える</li> <li>1 整った文を書く</li> <li>自己PRと面接</li> <li>1 自分を見つめて</li> <li>2 効果的な自己PR</li> <li>3 面接にチャレンジ</li> <li>4 志望動機をまとめよう</li> <li>5 履歴書・志望理由書の書き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表記と言葉・係り受け・文末表現の統一・適切な敬語・話し言葉と書き言葉など、整った文を書くための基礎を理解する。</li> <li>経験から得たことや学んだこと、自分の長所などについて整理する。</li> <li>事実やできごとをふまえて、自己PRを文章にまとめる。</li> <li>進路面接の基本マナーを理解し、立ち居振る舞いや言葉遣いを確認し、ロールプレイングを行う。</li> <li>目指す進路に向けて、志望動機を整理する。</li> <li>自己の適性や意欲、進路先の特長などを踏まえて、履歴書・志望理由書を書く。</li> </ul>			
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>書いて伝える</li> <li>1 わかりやすい文を書く</li> <li>2 絵や写真を見て書く</li> <li>自己PRと面接</li> <li>1 面接の準備</li> <li>2 将来の自分を考えよう</li> <li>小論文・レポート入門</li> <li>通信文を書き分ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わかりやすい文章にするために、適切な文の長さ、読点の打ち方を学ぶ。</li> <li>あいまいな表現を避けるための練習をする。</li> <li>絵や写真を言葉で説明することを通じて、客観的な表現を学ぶ。</li> <li>適切な言葉遣いや態度で面接の受け答えできるようにロールプレイを行う。</li> <li>質問に対して、具体的で説得力のある答え方を工夫する。</li> <li>進路実現後の生き方について考え、文章にする。</li> <li>客観的な視点で物事を捉え、明快に伝える文章作成に取り組む。</li> <li>物事を見るまなざしを育て、自分の意見を論理的に記述する。</li> <li>社会で必要とされる書類・手紙などの文書を作成する方法を学ぶ。</li> </ul>			
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>書いて伝える</li> <li>1 文のつなぎ方</li> <li>社会人に必要な知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>接続表現、文脈を考慮して、よりよく伝わる表現ができるように取り組む。</li> <li>接遇マナーや、言葉遣いについて学ぶ。</li> </ul>			
評価 方法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (10点)	②話す・聞く能力 (20点)	③書く・読む能力 (45点)	④知識・理解 (25点)	
	授業態度 5点 授業中の発表 5点	設定課題 20点	定期考査 25点 設定課題 20点	定期考査 25点	
備考	・学習内容は、進度によって変わる場合がある。				

教科	国語	科目名	現代文 A	単位数	2
履修年次	2年次	履修条件	国語総合を履修した生徒		
進路	すべての進路に対応				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語総合を踏まえた上で、更に難易度の高い文章を読解する能力を身につける。</li> <li>・基礎的な国語力を身につける。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	随想・文学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 随想の特徴に注意して読解できるようにする</li> <li>・ 身近な話題の中にも筆者独特の感じ方・考え方があることを読み取る</li> </ul>			
	小説・現代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近なテーマの現代の小説を味わう</li> <li>・ 小説の場面を読み、主人公の心理を理解する</li> </ul>			
	言語活動・朗読	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朗読について理解し、工夫して朗読する</li> <li>・ 朗読を聴くことで、詩の言葉の響きを味わう</li> <li>・ 朗読を通じて詩の表現を味わい、読みを深める</li> </ul>			
2 学 期	小説・近代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近代の名作文学の文体を読み味わう。</li> <li>・ 小説のテーマを読み取る力を身につける</li> <li>・ 時代を超えて共有されるものを読み取り、自分自身の生き方に置き換えて考える</li> </ul>			
	評論・言語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評論の特徴に注意して読解できるようにする</li> <li>・ 日常的なものについて、視点を変えてみることの面白さを知る</li> </ul>			
	言語活動・外国文化の影響を調べて発表する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の言語文化が外国から受けた影響について、理解を深める</li> <li>・ 設定したテーマについて考察し、発表する</li> <li>・ 発表の内容を聞き取り、理解する</li> </ul>			
3 学 期	随想・評論 社会・平和	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆者の主張を読み取る</li> <li>・ 広く社会に目を向けて考える視点を持つ</li> </ul>			
	言語活動・読み比べて考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じテーマの文章を読み比べ、自分の考えを持つ</li> <li>・ 話し合いを通じて、他の人の考えを把握し、批評しあう中で考えを深める</li> </ul>			
評価 方法	観点別評価				
	① 関心・意欲・態度 (10点)	②話す・聞く能力 (5点)	③書く・読む能力 (35点)	④知識・理解 (50点)	
	授業態度 5点 提出物 5点	授業中の発表 5点	定期考査 35点	定期考査 40点 小テスト 10点	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字小テストを実施。</li> <li>・ 定期的にワーク・ノート・課題プリントの提出がある。提出期限を厳守すること。</li> </ul>				

教科	国語	科目名	現代文B	
単位数	4	履修年次	3年次	
履修条件	国語総合・現代文Aを履修した生徒			
進路	大学・短大・専門学校（医療系） その他学科試験が必要な学校、官公庁（公務員）受験者			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語総合・現代文Aを踏まえた上で、更に難易度の高い文章を読解する能力を身につける。</li> <li>・ 応用的な国語能力を身につける。</li> <li>・ 四字熟語や故事成語など国語の教養を身につける。</li> </ul>			
学期	単元名	学 習 内 容		
一学期	随想Ⅰ 小説Ⅰ 評論Ⅰ 総合問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 随想の特徴に注意して読解できるようにする</li> <li>・ 身近な話題の中にも筆者独特の感じ方・考え方があることを読み取る</li> <li>・ 現代の短い小説から作品を味わう</li> <li>・ 主人公の心理を丹念に追う</li> <li>・ 評論の特徴に注意して読解できるようにする</li> <li>・ 視点を変えることで思わぬ発見があることを知る</li> <li>・ ワークを使用して、知識問題を実施。</li> <li>・ 重要語の読み・書き、同訓異字、同音異義語（漢字検定2～3級中心）などを扱う</li> </ul>		
二学期	随想Ⅱ 小説Ⅱ 評論Ⅱ 評論Ⅲ 総合問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆者の思いを読み取り、身近な問題に置き換えて考える力を身に付ける</li> <li>・ 「名作」を通じて小説の味わい方を学ぶ</li> <li>・ 論理的な文章を読み取る力を身に付ける</li> <li>・ 筆者の考えを的確に読み取ることが出来るようにする</li> <li>・ 筆者の考えに対して自分自身の考えを深める</li> <li>・ 評論文の読み方のまとめをする ワークを使用して、知識問題を実施。</li> <li>・ 重要語の読み・書き、同訓異字、同音異義語（漢字検定2～3級中心）などを扱う</li> </ul>		
三学期	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題演習により実践的な国語力を身につける</li> </ul>		
評価方法	①関心・意欲・態度 (10点)	②話す・聞く能力 (10点)	③書く・読む能力 (35点)	④知識・理解 (45点)
	授業態度 5点 提出物 5点	授業中の発表 10点	定期考査 35点	定期考査 35点 小テスト 10点
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>*定期的に小テストを実施し、取り組み状況の確認を行う。</li> <li>*定期的にワーク・ノート・プリントの提出がある。状況に応じて取組状況の確認を行う。提出期限が守れない場合は減点する。</li> <li>*副教材として、ワークを購入して、活用する。</li> </ul>			

教科	国語	科目名	古典A	
単位数	2	履修年次	2年次	
履修条件	国語総合を履修した生徒 3年次1群「チャレンジ古典」との継続履修。			
進路	大学・短大・入試に古典が必要となる専門学校			
学習目標	・国語総合で学習した古典の内容を更に深め、より難易の高い古典の文章を読む力を身につけると共に、受験に対応できる能力を身につける。			
学期	単元名	学 習 内 容		
1学期	随筆の世界 歌物語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年次で学んだことをもとに、更に難易度の高い古典の文章を読む解する力を身につける</li> <li>・ 古典特有の語句の意味や文法に注意して読む</li> <li>・ 古典独特の世界観・ユーモアを味わう</li> <li>・ 和歌の修辞について学習する</li> <li>・</li> </ul>		
2学期	説話 日記文学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物語を読み味わう</li> <li>・ 登場人物の心理を読み取る</li> <li>・ 有名作品に触れ、古典の面白さを感じ取る</li> <li>・ 現代にも通じる考え方について学ぶ</li> <li>・ それぞれの作品の世界観を味わう</li> <li>・ 日記文学を通して、当時の様子を感じ取る</li> </ul>		
3学期	歴史物語 俳諧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物語を読み味わう</li> <li>・ 登場人物の心理を読み取る</li> <li>・ 筆者や登場人物の主張を把握する</li> </ul>		
評価方法	①関心・意欲・態度 (15点)	②話す・聞く能力 (5点)	③読む・書く能力 (30点)	④知識・理解 (50点)
	提出物 10点 授業態度 5点	授業中の発表 5点	定期考査 30点	小テスト 10点 定期考査 40点
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適宜古語単語テストを行う。</li> <li>・ 2・3年継続履修（2年次：古典A⇒3年次：チャレンジ古典）</li> </ul>			

教科	国語	科目名	応用現代文	単位数	2
履修年次	2年次・3年次	履修条件	国語総合を履修した生徒 2年次で応用現代文を履修していない生徒		
進路	大学・短大・専門学校（医療系） その他国語の学科試験のある学校				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題演習を通じて、国語の学科試験に対応する力をつける</li> <li>さまざまな考え方に触れて視野を広げる</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1学期	評論 小説 知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試頻出漢字や語句を覚える</li> <li>評論の解き方を身につける</li> <li>小説の解き方を身につける</li> <li>熟語・慣用句など高校生として身に付けておくべき国語力の定着を図る</li> </ul>			
2学期	評論 小説 知識・運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試頻出漢字や語句を覚える</li> <li>評論の解き方を身につける</li> <li>小説の解き方を身につける</li> <li>対義語・敬語など高校生として身に付けておくべき国語力の定着を図る</li> </ul>			
3学期	評論 小説 知識・運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識の整理を中心とした問題演習を行う</li> <li>高校生として身に付けておくべき国語力の定着を図る</li> <li>類義語・同音異義語など高校生として身に付けておくべき国語力の定着を図る</li> </ul>			
評価方法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (25点)	②話す・聞く能力 (5点)	③書く・読む能力 (35点)	④知識・理解 (35点)	
	授業態度 5点 提出物 20点	授業中の発表 5点	定期考査 35点	定期考査 35点	
備考	問題演習が中心である。この学習内容は、尚文出版『ライトパーフェクト演習』浜島書店『論読現代文1』を中心として行う。 提出物は期限を守ること。授業内容は状況に応じて変わる場合がある。				

教科	国語	科目名	実践現代文
単位数	3	履修年次	3年次
進路	すべての進路に対応		
学習目標	ワークでの長文読解を通じて読解力を向上させる。 また、解答作成力を磨く。		
	単元名	学 習 内 容	
1学期	実践力をつけよう	『ルート現代文1 改訂版』啓隆社を使用して、評論、小説をまんべんなく読解。  評論『ことわざのころ』外山 滋比古 小説『セッちゃん』重松 清 随筆『父の詫び状』向田 邦子 など。  『テスト式国語常識の総演習』京都書房を使用して、知識問題を実施。 ・重要語の読み、書き ・慣用表現 ・近代短歌 などを扱う	
2学期	実践力を向上させよう	『ルート現代文1 改訂版』啓隆社を使用して、評論、小説をまんべんなく読解。  評論『たいくつの美学』森 毅 小説『泥の河』宮本 輝 随筆『季節のかたみ』幸田文 など。  『テスト式国語常識の総演習』京都書房を使用して、知識問題を実施。 ・同音異義語 ・四字熟語 ・ことわざ などを扱う+	
3学期	実践力を完成させよう	『ルート現代文1 改訂版』啓隆社を使用して、評論、小説を読解  評論『春の数えかた』日高 敏隆 小説『富岳百景』太宰 治 など  『テスト式国語常識の総演習』京都書房を使用して、知識問題を実施。 ・対義語、類義語 などを扱う	
評価方法	観点別評価		
	① 関心・意欲・態度 ② 話す・聞く能力 (10点)	③読む・書く能力 (40点)	③ 知識・理解 (50点)
	授業態度 5点 授業中の発表 5点	定期考査 40点	定期考査 40点 小テスト 10点
備考	ワークを購入。 この学習内容は『ルート現代文1 改訂版』啓隆社 『テスト式国語常識の総演習』京都書房 による。		

教科	国語	科目名	国語教養基礎	単位数	2
履修年次	2年次	履修条件	特になし		
進路	すべての進路に対応				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長文読解を通じ、文法や表現技法によって文章に込められた意味やニュアンスを読み取る力を向上させる。また、自身の文章作成能力への応用を企図する。</li> <li>・国語常識の習得</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1学期	論理的文章の読解 国語常識	<p>論理的文章に込められた効果や筆者の意図を、以下の文法や表現技法から学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重要語を読み取る。</li> <li>・ 接続後を読み取る。</li> <li>・ 指示語を読み取る。</li> <li>・ 繰り返し表現を読み取る。</li> <li>・ 具体と抽象を読み取る。</li> <li>・ 対比関係を読み取る。</li> </ul>			
2学期	文学的文章の読解 国語常識	<p>文学的文章に込められた効果や筆者の意図を、以下の文法や表現技法から学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人物、舞台を読み取る。</li> <li>・ 行動から心情を読み取る。</li> <li>・ 比喻表現を読み取る。</li> <li>・ 象徴的な表現を読み取る。</li> <li>・ 小道具の役割を読み取る。</li> <li>・ 会話を読み取る。</li> <li>・ 情景描写を読み取る。</li> </ul>			
3学期	評論的文章の読解 文学的文章の読解 国語常識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1、2学期学習内容の総括を行う。</li> <li>・ 基本的な漢字の読み書き・ことわざや慣用句について学ぶ。</li> <li>・ 文学史を学ぶ。</li> </ul>			
評価方法	観点別評価				
	④ 関心・意欲・態度 (20点)	⑤ 話す・聞く能力 (5点)	③読む・書く能力 (35点)	⑥ 知識・理解 (40点)	
	授業態度 10点 提出物 10点	授業中の発表 5点	定期考査 35点	定期考査 40点	
備考	受講者は『現代文読解WORKS Lesson1』（尚文出版）を購入する。				

教科	国語	科目名	文学入門	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	特になし		
進路	すべての進路に対応				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の読み書きや問題演習、創作活動を通じて、文学を読み味わうための知識を増やし、読解力を向上させる。</li> <li>日本文化の一端に触れ、和歌に親しみ、豊かな感性を育てる。</li> <li>百人一首の鑑賞を通して、表現することのすばらしさを味わう。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1学期	基礎力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>文学作品などを読み、考えたことを書いて、適切な文章表現方法を身につける。</li> <li>過去の入試問題を中心とした演習を通じて、正しい漢字の読みや熟語の意味などを理解する。</li> <li>創作活動を通して、表現力を養う。</li> </ul>			
2学期	基礎力の完成 小倉百人一首	<ul style="list-style-type: none"> <li>文学作品などを読み、考えたことを書いて、適切な文章表現方法を身につける。</li> <li>過去の入試問題を中心とした演習を通じて、正しい漢字の読みや熟語の意味などを理解する。</li> <li>創作活動を通して、表現力を養う。</li> <li>文法と修辞技巧を学ぶことにより、和歌の優れた技巧に触れる。</li> <li>主題と歌意を通して、作者の意図を読み取る。</li> </ul>			
3学期	創作活動 小倉百人一首	<ul style="list-style-type: none"> <li>文法と修辞技巧を学ぶことにより、和歌の優れた技巧に触れる。</li> <li>主題と歌意を通して、作者の意図を読み取る。</li> <li>創作活動を通して、表現力を養う。</li> </ul>			
評価方法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (25点)	②話す・聞く能力 (5点)	③読む・書く能力 (35点)	④知識・理解 (35点)	
	授業態度 5点 提出物 20点	授業中の発表 5点	定期考査 35点	定期考査 35点	
備考					

教科	国語	科目名	チャレンジ古典	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	原則として2年次の古典Aの継続履修		
進路	大学・短大・専門学校（医療系） その他国語の学科試験のある学校				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年次の古典の内容を踏まえ、更に難易度の高い文章を読解する能力を身につける</li> <li>・ 進学での学科試験に向けての実践的能力を身につける</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1学期	説話 物語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用言の復習を行う</li> <li>・ 古典の基本的語句・文法を踏まえ、古文を読解する能力を身につける</li> <li>・ 読みやすい古典を味わう</li> <li>・ 問題演習を通じて、実践的な読解能力を身につける</li> </ul>			
2学期	紀行文 随筆 物語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典の基本的語句・文法を踏まえ、やや難度の高い文章を読解する能力を身につける</li> <li>・ 古典の代表的作品を読み味わう</li> <li>・ 助動詞の復習を行う</li> <li>・ 問題演習を通じて、実践的な読解能力を身につける</li> </ul>			
3学期	日記 物語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典の基本的語句・文法を踏まえ、より難度の高い文章を読解する能力を身につける</li> <li>・ 古典の代表的作品を読み味わう</li> <li>・ 助詞の復習を行う</li> <li>・ 問題演習を通じて、実践的な読解能力を身につける</li> </ul>			
評価方法	観点別評価				
	② 関心・意欲・態度 (20点)	②話す・聞く能力 (10点)	③書く・読む能力 (30点)	④知識・理解 (40点)	
	授業態度 10点 提出物 10点	授業中の発表 10点	定期考査 30点	定期考査 30点 小テスト 10点	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2・3年継続履修（2年次：古典A⇒3年次：チャレンジ古典）</li> <li>・ 2年時に使用した「古典A」の教科書を使用する。</li> <li>・ 古語単語テストを行う。</li> <li>・ はじめは古典Aの教科書を使用しながら読解し、理解度に応じて問題演習を用いて読解を行う。内容は、進度に応じて変わる場合がある。</li> </ul>				

教科	地理歴史	科目名	世界史 A	単位数	2
履修年次	2年次・3年次	履修条件	2年次の世界史Aは、特になし。 3年次の世界史Aは、2年次で日本史Bを選択した生徒。		
進路	すべての進路に対応				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解する。</li> <li>・現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培う。</li> <li>・国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養う。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	世界史へのいざない I 世界の一体化と日本 1章 前近代の諸文明  2章 一体化に向かう世界	自然環境と歴史、日本列島の中の世界史 人類の始まり、東アジアの文明、南アジアの文明、東南アジアの文明、 西アジア・北アフリカの文明、ヨーロッパの文明、南北アメリカの文明、 南北アメリカの文明、ユーラシアの交流圏、  繁栄するアジア、大航海時代と新たな国家の形成			
2 学 期	3章 欧米の工業化と アジア諸国の動揺  II 地球社会と日本 1章 現代社会の芽生えと世界大戦	ヨーロッパとアメリカの諸革命、自由主義・ナショナリズムの進展、 アジア諸国の動揺、東アジアの大変動  現在につながる社会の形成、第一次世界大戦がもたらしたもの、			
3 学 期	1章 現代社会の芽生えと世界大戦  2章 冷戦から地球社会へ	“民族自決”を求めて、経済危機から第二次世界大戦へ  冷たい戦争の時代、冷戦終結への道のり、地球社会への歩み、 持続可能な社会をめざして			
評 価 方 法	観点別評価				
	① 関心・意欲・態度 (15点)	② 思考・判断・表現 (30点)	③ 資料活用の技能 (25点)	④知識・理解 (30点)	
	提出物・意欲 15点	定期考査 25点 提出物 5点	定期考査 20点 提出物 5点	定期考査 25点 提出物 5点	
備考	必履修科目				

教科	地理・歴史	科目名	世界史 B	単位数	4
履修年次	2年次	履修条件	歴史に興味を持っている生徒である事。		
進路	国公立・私立4年制大学進学志望者。その他進路でも歴史に興味を持っていれば選択可。				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の歴史の大きな枠組みを、我が国の歴史と関連付けながら理解する</li> <li>・文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することで歴史的思考力を身に付ける</li> <li>・国際社会を主体的に生きる日本人としての自覚と資質を伸ばす</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	世界史への扉 序. 先史時代 1.オリエントと地中海世界 2.アジア・アメリカ古代文明 3.東アジア世界の形成と発展 4.内陸アジア世界の変遷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界史学習の導入。衣食住や日本とのつながりなどから世界史を身近に感じる</li> <li>・自然環境に適応して発展した諸地域の古代文明</li> <li>・オリエント・エーゲ・ギリシア・ローマ・ヘレニズム文明</li> <li>・インド・東南アジア・中国・南北アメリカの古代文明</li> <li>・中華帝国と北方民族の抗争、東アジア文化圏の成立</li> <li>・ユーラシア内陸の遊牧民族、モンゴル帝国の発展</li> </ul>			
2 学期	5.イスラム世界の形成と発展 6.ヨーロッパ世界の形成と発展 7.諸地域世界の交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラム世界の拡大、イスラム文明の発展</li> <li>・ビザンツ帝国と東欧世界、西欧封建社会と王権の伸長、ヨーロッパ中世文化</li> <li>・草原の道・絹の道・海の道…ユーラシアの東西交流</li> </ul>			
3 学期	8.アジア諸地域の繁栄 9.近代ヨーロッパの成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・16～18世紀のアジア、明・清帝国、オスマン帝国とムガル帝国</li> <li>・大航海時代、ルネサンス、宗教改革、主権国家の形成</li> </ul>			
評価 方法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (10点)	②思考・判断・表現 (30点)	③資料活用の技能 (25点)	④知識・理解 (35点)	
	授業態度 5点 提出物 5点	定期考査 25点 提出物 5点	定期考査 25点	定期考査 25点 小テスト 10点	
備考	受験を考えているものは3年次の世界文化史特講(3単位)を履修する事。2年次の世界史Bで世界の通史の前半、3年次の世界文化史特講で後半を学びます。				

教科	地理・歴史	科目名	日本史 A	単位数	2
履修年次	2年次・3年次	履修条件	2年次の日本史Aは、特になし。 3年次の日本史Aは、2年次で世界史Bを選択した生徒。		
進路	すべての進路に対応				
学習目標	我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養う。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	1 近代国家の形成と国際関係の推移	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代への胎動</li> <li>・開国と幕末の動乱</li> <li>・近代国家の形成</li> <li>・国際関係の推移と近代産業の発展</li> </ul>			
2 学期	2 両大戦をめぐる国際情勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦と日本</li> <li>・第二次世界大戦と日本</li> </ul>			
3 学期	3 現代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の再出発</li> <li>・独立後の政治と経済の発展</li> </ul>			
評価方法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (20点)	②思考・判断・表現 (30点)	③資料活用の技能 (20点)	④知識・理解 (30点)	
	授業態度・提出物 20点	定期考査 20点 提出物 10点	定期考査 20点	定期考査 30点	
備考					

教科	地理・歴史	科目名	日本史 B	単位数	4
履修年次	2年次	履修条件	歴史に興味を持っている生徒であること。 受験に必要な生徒であること。		
進路	国公立・私立4年制大学 進学希望者、その他				
学習目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
	単元名	学 習 内 容			
1学期	1 原始・古代 (1)日本文化のあけぼの (2)律令国家の形成 (3)貴族政治と国風文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化の始まり・農耕社会の成立・古墳とヤマト政権</li> <li>・飛鳥の朝廷・律令国家への道・平城京の時代・天平文化・平安王朝の形成</li> <li>・摂関政治・国風文化・地方政治の展開と武士</li> </ul>			
2学期	2 中世 (1)中世社会の成立 (2)武家社会の成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院生と平氏の台頭・鎌倉幕府の成立・武士の社会・蒙古襲来と幕府の衰退・鎌倉文化</li> <li>・室町幕府の成立・幕府の衰退と庶民の台頭・室町文化・戦国大名の登場</li> </ul>			
3学期	3 近世 (1)幕藩体制の確立 (2)幕藩体制の展開 (3)幕藩体制の動揺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・織豊政権・桃山文化・幕藩体制の成立・幕藩社会の構造</li> <li>・幕政の安定・経済の発展・元禄文化</li> <li>・幕政の改革・宝暦・天明期の文化・幕府の衰退と近代への道・化政文化</li> </ul>			
評価方法	観点別評価				
	① 関心・意欲・態度 (10点)	② 思考・判断・表現 (30点)	③ 資料活用の技能 (20点)	④ 知識・理解 (40点)	
	授業態度・提出物 10点	定期考査 20点 提出物 10点	定期考査 20点	定期考査 30点 小テスト 10点	
備考	日本史での受験を考えている生徒は、3年次の日本文化史特講(3単位)を必ず履修すること。 2年次生の日本史Bで日本の通史の前半、3年生の日本文化史特講で後半を学ぶ。				

教科	地理・歴史	科目名	地理 A	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	「地理B」を履修していないこと。地理Aと地理Bはどちらか1科目しか選択できない。 地図・世界の地域環境等に興味のある生徒		
進路	すべての進路に対応				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連をを踏まえて考察する</li> <li>・現代世界の地理的認識を養い、地理的な見方や考え方を培う</li> <li>・国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	I 世界の諸地域の姿と地球的課題 1 地球儀からとらえる現代世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球上の位置と国家</li> <li>・グローバル化が進む世界</li> </ul>			
	2 人間生活をとりにく環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人々の生活と地形</li> <li>・人々の生活と気候</li> <li>・人々の生活と産業・文化</li> </ul>			
	3 世界の諸地域の生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国の生活・文化</li> <li>・韓国の生活・文化</li> <li>・東南アジアの生活・文化</li> <li>・南アジアの生活・文化</li> <li>・中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化</li> </ul>			
2 学 期	4 地球的課題と私たち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サハラ以南のアフリカの生活・文化、ヨーロッパの生活・文化</li> <li>・ロシアの生活・文化、アングロアメリカの生活・文化</li> <li>・ラテンアメリカの生活・文化、オーストラリアの生活・文化</li> <li>・複雑にからみ合う地球的課題、世界の環境問題</li> <li>・世界の資源・エネルギー問題、世界の人口問題</li> <li>・世界の食糧問題、世界の都市・居住問題</li> </ul>			
3 学 期	II 身近な地域の問題 1 身近にあるさまざまな地図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地図とその特色、GISの仕組みと支える技術</li> <li>目的に合わせた地図の作成</li> </ul>			
	2 日本の自然環境と防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の自然環境、地震災害と防災、火山災害と防災</li> <li>風水害・雪害と防災、災害に備える</li> </ul>			
	3 身近な地域の課題と地域問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査テーマの設定、現地調査の実施と分析、調査結果のまとめと発表</li> </ul>			
評 価 方 法	観点別評価				
	① 関心・意欲・態度 (15点)	②思考・判断・表現 (30点)	③資料活用の技能 (25点)	④知識・理解 (30点)	
	態度・意欲・提出物 15点	定期考査 25点 提出物 5点	定期考査 20点 提出物 5点	定期考査 25点 小テスト 5点	
備考					

教科	地理歴史	科目名	地理 B	単位数	4
履修年次	3年次	履修条件	「地理A」を履修していないこと。地理Bと地理Aはどちらか1科目しか選択できない。地図・世界の地域環境等に興味のある生徒		
進路	すべての進路に対応				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察する。</li> <li>・現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培う。</li> <li>・国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養う。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1学期	I さまざまな地図と地理的技能 1章 地理情報と地図 2章 地図の活用と地域調査 1章 自然環境 2章 資源と産業	地図の発達、地図の種類とその利用、地理情報の地図化 地図の活用、身近な地域の調査 世界の地形、世界の気候、日本の自然の特徴と人々の生活、環境問題 世界の農林水産業、食料問題、世界のエネルギー、鉱産資源 日本の資源・エネルギー問題			
2学期	2章 資源と産業 3章 人口、村落、都市 4章 生活文化、民族、宗教 III 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域	世界の工業、第3次産業、世界を結ぶ交通・通信、現代世界の貿易と経済圏 世界の人口、人口問題、村落と都市、都市・居住問題 世界の衣食住、民族と宗教、現代世界の国家、民族・領土問題 地域区分とは何か 地域の考察方法			
3学期	2章 現代世界の諸地域 3章 現代世界と日本	東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアと中央アジア 北アフリカとサハラ以南のアフリカ、ヨーロッパ、ロシア、 アングロアメリカ、ラテンアメリカ、オセアニア 日本が抱える地理的な諸課題、日本の抱える課題の追求			
評価方法	観点別評価				
	① 関心・意欲・態度 (15点)	② 思考・判断・表現 (25点)	③ 資料活用の技能 (30点)	④ 知識・理解 (30点)	
	意欲・態度・提出物 15点	定期考査 15点 提出物 10点	定期考査 20点 小テスト 5点 提出物 5点	定期考査 25点 小テスト 5点	
備考					

教科	地理・歴史	科目名	世界文化史特講	単位数	3
履修年次	3年次	履修条件	2年次で「世界史B」を履修していること		
進路	国公立・私立4年制大学進学志望者。その他進路でも歴史に興味を持っていれば選択可。				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の歴史の大きな枠組みを、我が国の歴史と関連付けながら理解する</li> <li>文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することで歴史的思考力を身に付ける</li> <li>国際社会を主体的に生きる日本人としての自覚と資質を伸ばす</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	10.ヨーロッパ主権国家体制の展開 11.欧米における近代社会の成長 12.欧米における近代国民国家の発展 13.アジア諸地域の動揺	<ul style="list-style-type: none"> <li>重商主義と啓蒙専制主義、西欧の海外進出、17・18世紀のヨーロッパ文化</li> <li>産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命とナポレオン</li> <li>ウィーン体制、国民国家の発展、アメリカ合衆国、19世紀の欧米文化</li> <li>オスマンの衰退、アジアの植民地化</li> </ul>			
2 学期	14.帝国主義とアジアの民族運動 15.二つの世界大戦 16.冷戦と第三世界の自立	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧米の帝国主義・世界分割とアジアの抵抗</li> <li>第一次世界大戦、ロシア革命、戦間期の欧米、アジア・アフリカの民族運動、世界恐慌、第二次世界大戦</li> <li>米ソ冷戦、第三世界、日本・ヨーロッパの復興、石油危機</li> <li>冷戦終結とソ連解体、世界の多極化、地域紛争、現代文明</li> </ul>			
3 学期	17.現代の世界 主題学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代的課題について主題を設定し歴史的観点から研究</li> <li>国際対立と協調、科学技術の発展、これからの日本と世界など</li> </ul>			
評 価 方 法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (10点)	②思考・判断・表現 (30点)	③資料活用の技能 (25点)	④知識・理解 (35点)	
	授業態度 5点 提出物 5点	定期考査 25点 提出物 5点	定期考査 25点	定期考査 25点 小テスト 10点	
備考	2年次の世界史Bに続いて、世界の通史の後半を学びます				

教科	地理・歴史	科目名	日本文化史特講	単位数	3
履修年次	3年次	履修条件	2年次で日本史Bを履修していること		
進路	国公立・私立4年制大学 進学希望者				
学習目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	4 近代・現代 (1)近代国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開国と幕末の動乱・明治維新と富国強兵</li> <li>・ 立憲国家の成立と日清戦争</li> <li>・ 日露戦争と国際関係</li> <li>・ 近代産業の発展</li> <li>・ 近代文化の発達</li> </ul>			
2 学 期	(2)二つの世界大戦とアジア  (3)占領下の日本  (4)高度成長の時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第一次世界大戦と日本</li> <li>・ ワシントン体制</li> <li>・ 市民文化の変容と大衆文化</li> <li>・ 恐慌の時代</li> <li>・ 軍部の台頭</li> <li>・ 第二次世界大戦</li> <li>・ 55年体制</li> <li>・ 経済復興から高度成長</li> <li>・ 経済大国への道</li> </ul>			
3 学 期	(5)激動する世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冷戦終結と日本社会の動揺</li> </ul>			
評 価 方 法	観点別評価				
	⑤ 関心・意欲・態度 (10点)	⑥ 思考・判断・表現 (30点)	⑦ 資料活用の技能 (20点)	⑧ 知識・理解 (40点)	
	授業態度・提出物 10点	定期考査 20点 提出物 10点	定期考査 20点	定期考査 30点 小テスト 10点	
備考	2年次の日本史Bに続いて、日本の通史の後半を学びます				

教科	地理・歴史	科目名	郷土研究	単位数	2
履修年次	2年次・3年次	履修条件	2年次：特になし 3年次：2年次に履修していない生徒		
進路	就職、その他(進学希望者も可)				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 但馬を中心とした郷土に目をむけ、郷土に息吹く先人の思いを探訪し、地域の風土性に理解を深め、郷土のあり方と地域の活性化を考える力を養う。</li> <li>・ 地域への「誇り・愛着・自負心」を高め、連帯の心を身に着ける。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	但馬の方言 但馬の地理と自然  但馬の歴史 但馬の由来と伝説 但馬の原始・古代 但馬の中世	地域ごとの方言 但馬の地形（山・溪谷・谷・峠・川など） 但馬の気候・地域区分  アメノヒボコと田道間守 縄文・弥生の但馬、但馬の古墳 奈良・平安の但馬、国府と国分寺 但馬山名氏、戦国織豊時代の但馬			
2 学期	但馬の歴史 但馬の近世 但馬の近現代  但馬紹介 観光地・グルメ・ 遺跡など  但馬の偉人	但馬の諸藩と生野の変 近代日本に貢献した但馬人  既習のもの、興味のあるものについて調べ、発表を実施  大石りく 北垣国道・原六郎 斉藤隆夫 植村直己 森はな一『じろはったん』を読む			
3 学期	但馬の観光	但馬の地場産業 但馬の観光・町並み 現代但馬の課題			
評価 方法	観点別評価				
	① 関心・意欲・態度 (20点)	② 思考・判断・表現 (30点)	③資料活用の技能 (20点)	④知識・理解 (30点)	
	授業態度・提出物 20点	定期考査 20点 提出物 10点	定期考査 20点	定期考査 30点	
備考					

教科	公民	科目名	倫理	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	過去の偉人に学び、「善く生きる」ことの意味を考え、さらに自分の考え方をさまざまな思想に触れる中で、もう一度見つめなおそうとする姿勢があること。		
進路	すべての進路に対応				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本・世界の歴史・文化を根底から支えている歴史的背景に触れながら学習するとともに、自己の生き方について考える。</li> <li>・混沌とする国際社会の中で、日本人と世界の人々とのものの考え方の相違の原点について考察する。</li> <li>・日常生活の中の疑問点に触れながら、その解明をする中で日本・世界の思想のおもしろさを再発見する。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	1 青年期の課題と自己形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期の意義</li> <li>・青年期の課題</li> </ul>			
	2 人間としての自覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギリシア思想</li> <li>・キリスト教</li> <li>・イスラーム</li> <li>・仏教</li> <li>・中国思想</li> <li>・芸術と人生</li> </ul>			
2 学期	3 日本人としての自覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古代日本人の思想</li> <li>・日本の仏教思想</li> <li>・近世日本の思想</li> <li>・西洋思想の受容と展開</li> </ul>			
	4 現代に生きる人間の倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の尊厳</li> <li>・科学技術と人間</li> <li>・民主社会と自由の実現</li> <li>・社会と個人</li> <li>・人間への新たな問い</li> <li>・社会参加と幸福</li> </ul>			
3 学期	5 現代の諸課題と倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の倫理</li> <li>・環境の倫理</li> <li>・家族の課題</li> <li>・地域社会の課題</li> <li>・高度情報化社会の課題</li> <li>・文化と宗教の課題</li> <li>・国際平和と人類福祉の課題</li> </ul>			
評価方法	観点別評価				
	① 関心・意欲・態度 (20点)	② 思考・判断・表現 (30点)	③ 資料活用 の技能 (20点)	④ 知識・理解 (30点)	
	授業態度 10点 提出物 10点	定期考査 25点 提出物 5点	定期考査 20点	定期考査 30点	
備考					

教科	公民	科目名	政治経済	単位数	2
履修年次	2年次・3年次	履修条件	現代社会を履修した生徒		
進路	進学、就職問わない。政治・経済に興味・関心がある生徒。 進学・就職試験における時事問題やそれをテーマとした小論文・質疑応答などに対応する。				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の現代社会をより発展させた内容を行い、政治・経済の基本的事項を学習し、グラフや統計資料を多角的な視点から分析できるように学習を進める。</li> <li>・自分の周りで起こる政治や経済の様々な問題を分かりやすく学習しながら、小論文や作文に必要な基礎知識を学習する。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	1. 第1編 (1) 民主政治の基本原則と日本国憲法 (2) 現代の国際政治と日本 2. 第2編 (1) 経済社会の変容と経済のしくみ (2) 国民経済と国際経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治と社会</li> <li>・政治と国家</li> <li>・冷戦下の国際政治</li> <li>・緊張緩和と多極化</li> <li>・経済とは何か</li> <li>・資本主義経済の特質</li> <li>・国際分業と貿易</li> <li>・自由貿易と保護貿易</li> <li>・国際収支</li> <li>・為替相場のしくみ</li> </ul>			
2 学 期	3. 第3編 (1) 現代日本の政治や経済の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな政府の持つ問題点</li> <li>・「小さな政府」への動き</li> <li>・少子高齢社会</li> <li>・豊かな社会を目指して</li> <li>・住民自治と地方自治</li> <li>・高度情報社会</li> <li>・自然環境の保全と経済発展</li> </ul>			
3 学 期	(2) 国際社会の政治や経済の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際会議における対立</li> <li>・持続可能な開発を目指して</li> <li>・核兵器をめぐる現状</li> <li>・国際平和のために</li> </ul>			
評 価 方 法	観点別評価				
	② 関心・意欲・態度 (20点)  授業態度 10点 提出物 10点	②思考・判断・表現 (30点)  定期考査 25点 提出物 5点	③資料活用の技能 (20点)  定期考査 20点	④知識・理解 (30点)  定期考査 30点	
備考	2年次で単位を取得した人は3年次では取れません。				

教科	公民	科目名	現代の探求	単位数	2
履修年次	2年次	履修条件	現代社会を履修した生徒		
進路	進学(大学以外)、就職				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の現代社会の授業で重点的に学習していない分野を学習する。特に「世界の中の日本」を意識して、国際政治や国際経済の分野、現代社会の諸問題について学習していく。</li> <li>・人間としての在り方、生き方について多様な角度から考察できるように、自らが課題を設定し課題を探究し、進路実現のために必要な能力や小論文・作文を書く能力を身に付けていく。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1学期	1. 国際政治の動向と日本の役割 2. 現代の経済社会と私たちの生活(1)	国家主権と国際法 国際連合の役割 今日の国際社会 核兵器の廃絶と国際平和 国境と領土問題 地域紛争と人種・民族問題 外交政策と日本の役割 経済社会と経済体制 現代の企業 市場経済のしくみ 経済成長と景気変動			
2学期	2. 現代の経済社会と私たちの生活(2)	政府の経済的役割と租税の意義 金融機関のはたらき 戦後の日本経済の動き 産業構造の変化 雇用と労働問題 公害の防止と環境保全 消費者保護と契約 社会保障と国民福祉			
3学期	3. 国際経済の動向と日本の役割	国際経済のしくみと貿易の拡大 国際経済の動向 発展途上国の経済と南北問題 国際協調と日本の役割			
評価方法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (10点)	②思考・判断・表現 (35点)	③資料活用の技能 (25点)	④知識・理解 (30点)	
	授業態度・提出物 10点	定期考査 25点 提出物 10点	定期考査 25点	定期考査 30点	
備考	1年次に使用した「現代社会」の教科書・資料集を使用				

教科	公民	科目名	現代の探求	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	現代社会を履修した生徒		
進路	進学（大学以外）、就職				
学習目標	<p>・1年次の現代社会の授業で重点的に学習していない分野を学習する。特に「世界の中の日本」を意識して、国際政治や国際経済の分野、現代社会の諸問題について学習していく。</p> <p>・人間としての在り方、生き方について多様な角度から考察できるように、自らが課題を設定し課題を探求し、進路実現のために必要な能力や小論文・作文を書く能力を身に付けていく。</p>				
	単元名	学 習 内 容			
1学期	1. 国際政治の動向と日本の役割 2. 現代の経済社会と私たちの生活 (1)	国家主権と国際法 国際連合の役割 今日の国際社会 核兵器の廃絶と国際平和 国境と領土問題 地域紛争と人種・民族問題 外交政策と日本の役割 経済社会と経済体制 現代の企業 市場経済のしくみ 経済成長と景気変動			
2学期	2. 現代の経済社会と私たちの生活 (2)	政府の経済的役割と租税の意義 金融機関のはたらき 戦後の日本経済の動き 産業構造の変化 雇用と労働問題 公害の防止と環境保全 消費者保護と契約 社会保障と国民福祉			
3学期	3. 国際経済の動向と日本の役割	国際経済のしくみと貿易の拡大 国際経済の動向 発展途上国の経済と南北問題 国際協調と日本の役割			
評価方法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (10点)	②思考・判断・表現 (35点)	③資料活用の技能 (25点)	④知識・理解 (30点)	
	授業態度・提出物 10点	定期考査 25点 提出物 10点	定期考査 25点	定期考査 30点	
備考					

教科	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	4
履修年次	2年次	履修条件	特になし		
進路	国公立大学、私立大経済系、情報系など				
学習目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数および微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象の考察に活用することができる。				
	単元名	学 習 内 容			
1学期	方程式・式と証明  図形と方程式	整式の除法・分数式の計算 2次方程式 高次方程式 式と証明  点と直線 円 軌跡と領域			
2学期	三角関数  指数関数・対数関数	三角関数 加法定理  指数関数 対数関数			
3学期	微分と積分	微分係数と導関数 導関数の応用 積分			
評価方法	◎ 観点別評価				
	観点	①関心・意欲・態度 (20点)	②数学的な見方 ・考え方 (20点)	③数学的な技能 (20点)	④知識・理解 (40点)
内容	授業態度 10点 提出物 10点	定期考査 20点	定期考査 20点	定期考査 30点 小テスト 10点	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出物は、授業ノート、ワークを評価する。</li> <li>・定期考査には、課題考査も含む。</li> <li>・小テストは必要に応じて随時行う。</li> </ul>				
備考					

教科	数学	科目名	数学 A	単位数	2
履修年次	2年次・3年次	履修条件	特になし		
進路	すべての進路に対応				
学習目標	場合の数と確率、整数の性質または図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象の考察に活用することができる。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	場合の数と確率	数え上げの原則 順列・組合せ 確率とその基本的な法則 独立な試行と確率 条件つき確率			
2 学期	図形の性質	三角形の性質 円の性質 空間図形			
3 学期	整数の性質	約数と倍数 ユークリッドの互除法 整数の性質の活用			
評価 方法	◎観点別評価				
	観 点	①関心・意欲・態度 (20点)	②数学的な見方・考え方 (20点)	③数学的な技能 (20点)	④知識・理解 (40点)
	内 容	授業態度 10点 提出物 10点	定期考査 20点	小テスト 10点 定期考査 10点	小テスト 10点 定期考査 30点
	提出物は、授業ノート、ワークを評価する。				
備考					

教科	数学	科目名	数学B	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	特になし		
進路	すべての進路に対応				
学習目標	確率分布と統計的な推測、数列またはベクトルについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象の考察に活用することができる。				
	単元名	学習内容			
1学期	数列	等差数列と等比数列 いろいろな数列 漸化式と数列 数学的帰納法			
2学期	ベクトル	ベクトルとその演算 ベクトルの内積 空間座標とベクトル			
3学期	確率分布と統計的な推測	確率変数と確率分布 二項分布 正規分布 母集団と標本 統計的な推測の考え			
評価方法	◎観点別評価				
	観点	①関心・意欲・態度 (20点)	②数学的な見方・考え方 (20点)	③数学的な技能 (20点)	④知識・理解 (40点)
	内容	授業態度 10点 提出物 10点	定期考査 20点	小テスト 10点 定期考査 10点	小テスト 10点 定期考査 30点
	提出物は、授業ノート、ワークを評価する。				
備考					

教科	数学	科目名	実用数学 A	単位数	3
履修年次	3年次	履修条件	特になし		
進路	情報系・商業系への大学進学				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学後に必要となる知識を身に付ける。</li> <li>・数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Bの内容から以下の内容を重点的に学習する。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	基本的な計算	1次関数 2次関数 指数・対数			
	微分と積分	微分係数と導関数 積分			
	数列	等差数列と等比数列 いろいろな数列			
2 学 期	ベクトル	ベクトルとその演算 ベクトルの内積 空間座標とベクトル			
3 学 期	まとめ	問題演習			
評 価 方 法	◎観点別評価				
	観 点	①関心・意欲・態度 (20点)	②数学的な見方・考え方 (20点)	③数学的な技能 (20点)	④知識・理解 (40点)
	内 容	授業態度 10点 提出物 10点	定期考査 20点	定期考査 10点 小テスト 10点	定期考査 30点 小テスト 10点
提出物は授業中に使用している「ニュージャスト数学ⅡB」を評価する。					
備 考	教科書はありませんが、ワーク「ニュージャスト数学ⅡB」を購入する必要あり				

教科	数学	科目名	実用数学B	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	数学Aを履修していることが望ましい		
進路	専門学校、大学校、就職など				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会活動に応じた課題を正確に処理するために必要な数学技能を身につける</li> <li>専門学校や大学校、就職試験の数学に対応する数学力を身につける</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	数の計算 整式 乗法公式・因数分解 1・2次方程式 1次不等式 2次関数・グラフ 2次不等式	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的基本的な問題演習を行う。</li> <li>四則演算、小数の計算、分数の計算など高校数学で必要な知識の復習をする。</li> <li>教科書レベルの数I、数Aの定着を図る為に問題演習を行う。</li> </ul>			
2 学期	三角比 場合の数 順列・組合せ 確率 応用問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書レベルの数I、数Aの定着を図る為に問題演習を行う。</li> <li>但馬技術大学校、トヨタなど自動車関係の専門学校の過去問題、医療関係の専門学校の過去問題を中心に生徒の進路にあった問題を選択し、学習を進める。</li> <li>就職試験の数学の問題も扱う。</li> </ul>			
3 学期	応用問題				
評価 方法	◎観点別評価				
	観 点	①関心・意欲・態度 (20点)	②数学的な見方・考え方 (20点)	③数学的な技能 (20点)	④知識・理解 (40点)
	内 容	授業態度 10点 提出物 10点	定期考査 20点	小テスト 10点 定期考査 10点	小テスト 10点 定期考査 30点
	提出物は授業中に使用している「テスト式就職数学 数学I・A」で評価する。				
備考	教科書はありませんが、ワーク「テスト式就職数学 数学I・A」を購入する必要あり				

教科	数学	科目名	応用数学	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	数学I・数学Aを履修していること		
進路	国公立大学、私立大経済系、情報系など				
学習目標	・応用問題へチャレンジし、進学や就職に向けての入試問題にも対応できる、数学力を身につける。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	数と式	式の計算 実数 1次不等式・絶対値			
	集合と論証	集合と論証			
	2次関数	2次関数とそのグラフ 2次方程式と2次不等式			
	図形と計量	鋭角の三角比 三角比の拡張 三角比への応用			
2 学 期	データの分析	データの整理と分析 データの相関			
	場合の数と確率	数え上げの原則 順列・組合せ 確率とその基本的な法則 独立な試行と確率 条件つき確率			
	図形の性質	平面図形 空間図形			
3 学 期	問題演習	総合問題にチャレンジ			
評 価 方 法	◎観点別評価				
	観 点	①関心・意欲・態度 (20点)	②数学的な見方・考え方 (20点)	③数学的な技能 (20点)	④知識・理解 (40点)
	内 容	授業態度 10点 提出物 10点	定期考査 20点	小テスト 10点 定期考査 10点	小テスト 10点 定期考査 30点
提出物は、ワーク「チェックノート数学I+A」を評価する。					
備考	教科書はありませんが、ワーク「チェックノート数学I+A」を購入する必要あり				

教科	数学	科目名	基本数学	単位数	2
履修年次	2年次・3年次	履修条件	特になし		
進路	進学(大学以外)、就職				
学習目標	・1年次に学習した数Iの復習を中心に、再度基礎・基本の徹底を図る。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	数と式	① 式の計算 → 整式の加減乗除、因数分解 ② 実数 → 実数、根号を含む式の計算 ③ 1次不等式 → 不等式の性質、1次不等式の応用			
	集合と論証	① 集合 → 集合 ② 集合と論証 → 命題と条件、論証			
2 学 期	2次関数	① 2次関数とそのグラフ → 2次関数 2次関数の最大・最小 2次関数の決定 ② 2次方程式と2次不等式 → 2次方程式 グラフとx軸の共有点 2次不等式 2次不等式の応用			
	図形と計量	① 鋭角の三角比 → 直角三角形と三角比、直角三角形の辺と角、 三角比の相互関係 ② 三角比の拡張 → 三角比と座標・性質			
3 学 期	データの分析	③ 三角比への応用 → 正弦定理、余弦定理、面積、空間図形の計量 ① データの整理と分析 → データの整理・代表値・ちらばり ② データの相関 → 相関 相関係数			
評 価 方 法	◎観点別評価				
	観 点	①関心・意欲・態度 (20点)	②数学的な見方・考え方 (20点)	③数学的な技能 (20点)	④知識・理解 (40点)
	内 容	授業態度 10点 提出物 10点	定期考査 20点	定期考査 10点 小テスト 10点	定期考査 30点 小テスト 10点
提出物は授業中に使用している「ニュージャスト数学I」を評価する。					
備考	教科書はありませんが、ワーク「ニュージャスト数学I」を購入する必要あり				

教科	数学	科目名	数学探究	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	数学Ⅱを履修していること		
進路	国公立大学、私立大経済系、情報系など				
学習目標	・応用問題へチャレンジし、進学に向けての入試問題にも対応できる、数学力を身につける。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	方程式・式と証明	整式の除法・分数式の計算 2次方程式 高次方程式 式と証明			
	図形と方程式	点と直線 円 軌跡と領域			
2 学 期	三角関数	三角関数 加法定理			
	指数関数・対数関数	指数関数 対数関数			
	微分と積分	微分係数と導関数 導関数の応用 積分			
3 学 期	問題演習	応用問題にチャレンジ			
評 価 方 法	◎観点別評価				
	観 点	①関心・意欲・態度 (20点)	②数学的な見方・考え方 (20点)	③数学的な技能 (20点)	④知識・理解 (40点)
	内 容	授業態度 10点 提出物 10点	定期考査 20点	小テスト 10点 定期考査 10点	小テスト 10点 定期考査 30点
提出物は授業中に使用している「ニューアシスト 新編 数学Ⅱ」を評価する。					
備考	教科書はありませんが、ワーク「ニューアシスト 新編 数学Ⅱ」を購入する必要あり				

教科	理科	科目名	物理基礎	単位数	2	
履修年次	3年次	履修条件	特になし			
進路	理工系、看護医療系、工業系の専門学校進学希望者および製造業への就職希望者					
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物体の運動など、身近な物理現象やエネルギーへの関心を高める。</li> <li>・物理学の基本的な概念や原理・法則を理解する。</li> <li>・身近に見られる物理現象の背後に原理・法則が存在することを理解し、それらを日常生活や社会の中で活用する能力と態度を養う。</li> </ul>					
	単元名		学習内容			
1学期	第1編 物体の運動とエネルギー 第1章 物体の表し方  第2章 運動の法則		<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に直線上を動く物体の運動を正確に表す方法について学ぶ。内容は、速度、加速度、落体の運動等である。</li> <li>・いろいろな力の性質を学ぶとともに、力がはたらいた場合の物体の運動の変化の様子を調べる。内容は、力とそのはたらき、つりあい、運動の法則等である。</li> </ul>			
2学期	第3章 仕事と力学的エネルギー 科学の研究の進め方  第2編 熱 第1章 熱とエネルギー  第3編 波 第1章 波の性質 第2章 音		<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事、力学的エネルギーについて学び、力学的エネルギーが保存されることを中心に学習する。内容は、仕事、各エネルギー、力学的エネルギーである。</li> <li>・熱の本質を知り、エネルギーとの関係を学ぶ。内容は、熱と熱量、熱と仕事、熱機関等である。</li> <li>・波とは何か、その伝わる方などを学び、波の性質を学ぶ。</li> <li>・音の伝わり方や性質を学ぶ。</li> </ul>			
3学期	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗  第2章 磁場と交流  第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーとその利用 第2章 物理学が拓く世界		<ul style="list-style-type: none"> <li>・静電気や電流など、電気に関わる法則を学習し、さらに発電機や電磁波について学ぶ。内容は、電気の性質、電流と電気抵抗等である。</li> <li>・電磁誘導や交流、電磁波について学ぶ。内容は、電流と磁場、交流等である。</li> <li>・上記の関連項目と関係付けて説明をします。</li> <li>・人類が利用することができる各種エネルギーの特性や利用について学ぶ。</li> <li>・物理基礎で学んだことが日常生活や科学技術と結びついていることを学ぶ。</li> </ul>			
評価方法	観点別評価					
	①関心・意欲・態度		②思考・判断・表現		③観察・実験の技能	
	ノート	10点	報告書	5点	報告書	5点
	報告書	5点	考査	15点	実験実習	10点
	授業態度	5点			考査	25点
備考	特になし					

教科	理科	科目名	化学基礎	単位数	2
履修年次	2年次	履修条件	特になし		
進路	理工系、看護医療系、薬学系等や理美容等の衛生分野の進学希望者				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質の成り立ちや、原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解する。</li> <li>・化学結合と物質の性質との関係を理解し、物質についての見方ができるようにする。</li> <li>・化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応について観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する基本的な概念や法則を理解する。</li> </ul>				
	単元名		学習内容		
1学期	第1部 物質の構成 第1章 物質の構成 1 純物質と混合物 2 物質とその成分 3 粒子の熱運動と物質の三態  第2章 物質の構成粒子 1 原子の構造と電子配置 2 イオン 3 元素の周期表  第3章 化学結合 1 イオン結合 2 共有結合 3 金属結合 4 物質の分類と融点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質の性質を調べるために、物質の分類や分離・精錬法、物質の状態変化について学ぶ。</li> <li>・原子の構造、とりわけ電子配置と原子の性質との関係を学ぶ。</li> <li>・原子の電子配置と関係が深い3種の化学結合について学ぶ。</li> </ul>		
2学期	第2部 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 1 原子量・分子量・式量 2 物質質量 3 化学反応式と化学変化と量的関係  第2章 酸と塩基 1 酸と塩基 2 水の電離とpH 3 酸・塩基の中和と塩		<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子や分子の質量の相対質量による表し方、物質を粒子の数で表す「物質質量」とその単位 mol、化学変化における物質の量的関係を表す方法などについて学ぶ。</li> <li>・酸と塩基の性質や反応について学ぶ。さらに水溶液の酸性や塩基性の強さを示す数値としてpHを学ぶ。</li> </ul>		
3学期	第3章 酸化還元反応 1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応 4 酸化還元反応と人間生活		<ul style="list-style-type: none"> <li>・酸化・還元の見方、表し方、はたらきについて学ぶだけでなく、酸化還元反応の仕組みや利用例についても学ぶ。</li> </ul>		
評価方法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解	
	ノート 10点 報告書 5点 授業態度 5点	報告書 5点 考査 25点	報告書 5点 実験実習 5点	考査 35点 小テスト 5点	
備考	特になし				

教科	理科	科目名	生物基礎	単位数	2
履修年次	2年次	履修条件	必履修		
進路	特になし				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物の多様性を踏まえつつ、生物に共通する概念や原理・法則を理解する。</li> <li>遺伝子・健康・環境など、日常生活や社会とのかかわりを考えるために必要な科学的素養を高める。</li> <li>観察、実験を通して生物や生命現象に対する畏敬の念を育む。</li> <li>多様性と共通性という2つの視点から、生物や生命現象を探求する方法や姿勢を身につける。</li> </ul>				
	単元名	学習内容			
1学期	1編 生物の特徴 1章 多様性と共通性 2章 生命活動とエネルギー  2編 遺伝子とそのはたらき 1章 生物と遺伝子	生物の多様性、原核細胞・原核細胞の共通性、細胞の構成成分代謝、呼吸による ATP 合成、酵素のはたらき、細胞内共生説  DNA 構造、遺伝情報、ゲノム			
2学期	2編 遺伝子とそのはたらき 2章 遺伝情報の分配 3章 遺伝情報とタンパク質  3編 生物の体内環境の維持 1章 体内環境の維持 2章 体内環境を保つしくみ 3章 体内環境を守るしくみ	体細胞分裂と減数分裂、DNA 複製と分配、細胞周期 セントラルドグマ、転写・翻訳、遺伝子発現  恒常性、体液循環、血液組成とはたらき、肝臓・腎臓のつくりとはたらき 自律神経系と内分泌系、血糖値調節、体温調節 自然免疫と獲得免疫、細胞性免疫と体液性免疫			
3学期	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生の多様性と遷移 2章 バイオームとその分布 3章 生態系とその保全	生態系、遷移 世界と日本のバイオーム 生態系におけるエネルギー循環・物質循環、生物多様性の保全			
評価方法	観点別評価				
	① 関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解	
	ノート4点 レポート4点 小テスト4点 授業態度4点	レポート4点 小テスト4点	ノート4点 レポート4点	小テスト4点 授業態度4点 考査60点	
備考					

教科	理科	科目名	生物	単位数	4	上限人数	20
履修年次	3年次		履修条件	特になし			
進路	進学予定者						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象をさらに広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身につける。</li> <li>生物学の基本的な概念・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育てる。</li> <li>観察・実験を通して自然を科学的に探究する能力を育てる。</li> <li>命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。</li> </ul>						
	単元名		学習内容				
1学期	5編 生態と環境 1章 個体群と生物群集 2章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ 3章 生態系と生物多様性		: 個体群と環境、個体群の構造と成長、生物群集の成り立ちと多種の共存 食物網と物質生産、生態系の構造とエネルギーの流れ 生物多様性とその意味、生物多様性を減少させる要因  : 生命の起源、生物の変遷、人類の変遷 進化とは、生物の個体間の変異とその起源、種分化、共進化 生物の系統、生物の世界の3ドメイン、生物の系統のまとめ				
	6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の変遷 2章 進化のしくみ 3章 生物の系統						
2学期	3編 生殖と発生 1章 生物の生殖と配偶子の形成 2章 動物の発生 3章 動物の発生のしくみ 4章 発生をつかさどる遺伝子 5章 植物の発生		<ul style="list-style-type: none"> <li>有性生殖、減数分裂によってもたらされる遺伝的多様性、遺伝子の連鎖と組み換え 動物の配偶子形成、受精、動物の初期発生の概略、カエルの発生、ウニの発生 背側の決定、中胚葉誘導、形成体と誘導、誘導の連鎖 ショウジョウバエの発生、動物の発生とホックス遺伝子 被子植物の生殖、被子植物の器官分化</li> </ul>				
	4編 生物の環境応答 1章 動物の刺激の受容と反応 2章 動物の行動 3章 植物の環境応答		: 刺激の受容から反応への情報の流れ、ニューロンの性質と興奮のしくみ 動物の行動をめぐる4つの「なぜ」、動物の行動の例 環境に応じた植物の一生と植物ホルモン、環境要因による発芽の調節				
3学期	1編 生命現象と物質 1章 生体物質と細胞 2章 生命現象を支えるタンパク質 3章 代謝とエネルギー		: 細胞小器官、生体膜のはたらきと構造、細胞骨格のはたらき 生命現象とタンパク質、タンパク質の立体構造とはたらき エネルギー変化と化学反応、呼吸、光合成、化学合成 :				
	2編 遺伝子のはたらき 1章 遺伝情報の発現 2章 遺伝子の発現調節 3章 バイオテクノロジー		遺伝情報の流れ、DNAの複製、遺伝情報の転写、遺伝情報の翻訳 転写開始の調節 目的の遺伝子を増やす、遺伝子の情報を読む、遺伝子を細胞に導入する				
評価方法	観点別評価						
		①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解		
		ノート4点 レポート4点 小テスト4点 授業態度4点	レポート4点 小テスト4点	ノート4点 レポート4点	小テスト4点 授業態度4点 考査60点		
備考	特になし						

教科	理科	科目名	地学基礎	単位数	2				
履修年次	3年次	履修条件	特になし						
進路	すべての進路に対応している								
学習目標	<p>日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変動する地球についてビデオなどを通して探究し、地球がプレートの運動などによって変動してきたことを理解する。</li> <li>・宇宙の誕生と地球の形成についてビデオなどを通して探究し、宇宙と惑星としての地球の特徴を理解させる。</li> </ul>								
	単元名		学習内容						
1学期	第2章 活動する地球 第1節 地球の姿  第2節 火山活動と地震		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球の概観について学び、その内部構造について理解する。内容は、地球の形と大きさ、内部構造、構成物質、プレート運動等である。</li> <li>・プレートと地球の活動について理解し、地震や火山活動、火成岩の形成について学ぶ。内容は、火山の分布、地形、噴火と火成岩、その種類、地震の発生等である。</li> </ul>						
2学期	第3章 移り変わる地球 第1節 地層や岩石と地質構造 第2節 地球環境と生物界の変遷  第1章 宇宙における地球 第1節 宇宙の構成 第2節 太陽 第3節 太陽系の中の地球		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地層と地質構造について学び、地球の歴史の組み立てについて理解する。生命の変遷について学ぶ。内容は、地層の形成、堆積構造、堆積岩、変成岩、化石、地質時代等である。</li> <li>・太陽系の誕生について理解し、太陽系の天体について学ぶ。太陽の誕生と進化を理解する。内容は、宇宙の始まり、広がり、太陽の構造、組織、太陽系の構造、誕生、惑星・衛星等である。</li> </ul>						
3学期	第4章 大気と海洋 第1節 地球の熱収支 第2節 大気と海洋の運動  第5章 地球の環境 第1節 地球環境の科学 第2節 日本の自然環境		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気圏について理解し、地球全体のエネルギー収支について理解する。日本の気象、地球環境に及ぼす人間活動の影響について学ぶ。内容は、大気の構成、大気圏の特徴、循環等である。</li> <li>・第1章～第4章の中で関連する項目を取り扱う。</li> </ul>						
評価方法	観点別評価								
	①関心・意欲・態度		②思考・判断・表現		③観察・実験の技能				
	ノート	10点	報告書	5点	報告書	5点	④知識・理解	考査	40点
	報告書	5点	考査	20点	実習	10点			
備考	特になし								

教科	理科	科目名	発展生物	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	特になし		
進路	4年制大学、専門学校（看護、医療、栄養）進学希望者				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通テスト「生物基礎」を解ける力を身につける。</li> <li>2年次の「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象をさらに広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身につける。</li> <li>生物学の基本的な概念・法則を理解した上で問題演習を行い、入試に必要な生物の知識・多彩な問題に対応できる知識を身につける。</li> </ul>				
	単元名	学習内容			
1学期	1 生態と環境 <ul style="list-style-type: none"> <li>個体群と生物群集</li> <li>生態系と生物多様性</li> </ul> 問題演習	個体群と環境、個体群の構造と成長、生物群集の成り立ちと多種の共存食物網と物質生産、生態系の構造とエネルギーの流れ 生物多様性とその意味、生物多様性を減少させる要因  共通テスト対策のための問題演習(生物基礎)			
2学期	2 生物の進化と系統 <ul style="list-style-type: none"> <li>生命の起源と生物の変遷</li> <li>進化のしくみ</li> <li>生物の系統</li> </ul> 問題演習	生命の起源、生物の変遷、人類の変遷 進化とは、生物の個体間の変異とその起源、種分化、共進化 生物の系統、生物の世界の3ドメイン、生物の系統のまとめ  入試問題演習 <ul style="list-style-type: none"> <li>共通テストの過去問</li> <li>4年制大学、看護医療専門学校等の過去問</li> </ul>			
3学期	問題演習	入試問題演習 <ul style="list-style-type: none"> <li>共通テストの過去問</li> <li>4年制大学、看護医療専門学校等の過去問</li> </ul>			
評価方法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解	
	ノート4点 レポート4点 小テスト4点 授業態度4点	レポート4点 小テスト4点	ノート4点 レポート4点	小テスト4点 授業態度4点 考査60点	
備考					

教科	理科	科目名	理数化学	単位数	2	上限人数
履修年次	3年次	履修条件	特になし			
進路	理工系、看護医療系、薬学系等や理美容等の衛生分野の進学希望者					
学習目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。					
	単元名		学習内容			
1学期	1 化学反応の速さ ① 反応速度 ② 化学反応の速さと濃度 ③ 化学反応の速さと温度 ④ 触媒  2 化学平衡 ① 化学平衡 ② 平衡定数 ③ 平衡移動		<ul style="list-style-type: none"> <li>反応速度の表し方、反応速度と濃度との関係、反応速度と温度との関係、触媒の働きとその利用を学習する。学習内容は、単元名の①～④です。</li> <li>化学平衡、平衡定数の意味を学習する。ルシャトリエの原理を学習する。学習内容は、単元名の①～③です。</li> </ul>			
2学期	3 電離平衡 ① 電離平衡 ② 弱酸・弱塩基の電離平衡 ③ 塩の性質と反応 ④ 緩衝液と緩衝作用 ⑤ 溶解度積  4 無機物質 ① 非金属元素の単体と化合物 ② 典型金属元素の単体と化合物 ③ 遷移元素の単体と化合物		<ul style="list-style-type: none"> <li>水の電離平衡、弱酸・弱塩基の電離平衡、pH、塩の性質とその反応、緩衝液とその作用、溶解度積を学習する。学習内容は、単元名の①～⑤です。</li> <li>無機物質の性質や反応を学習する。無機物質を、日常生活に関連付けて学習する。合金やセラミックスの性質や用途等も学習する。内容は、典型元素や遷移元素からなる単体や化合物の性質や化学反応等です。学習内容は、単元名の①～③です。</li> </ul>			
3学期	5 有機化合物 ① 有機化合物の特徴と分類 ② 脂肪族炭化水素 ③ 酸素を含む脂肪族化合物 ④ 芳香族化合物		<ul style="list-style-type: none"> <li>有機化合物の特徴と分類、構造式を決定するまでの過程を学習する。脂肪族炭化水素、アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステルについて学習する。芳香族炭化水素について、その性質や用途を学習する。</li> </ul>			
評価方法	観点別評価					
	①関心・意欲・態度		②思考・判断・表現		③観察・実験の技能	
	ノート 10点 報告書 5点 授業態度 5点		報告書 5点 考査 20点		報告書 5点 実験実習 10点 考査 40点	
備考	教科書がない科目などで化学基礎を履修していることが望ましい。					

教科	体育	科目名	体育	単位数	3
履修年次	2年次	履修条件	必履修		
進路	特になし				
学習目標	・健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に応じた運動の計画をたて、生涯を通じて運動を継続する力を養う。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	「体づくり運動」	集団行動・新体力テスト			
	選択Ⅰ 「器械運動」 「球技」	跳躍：走り高跳び、走り幅跳び テニス			
	「水泳」  「体育理論」	クロール、平泳ぎ  【運動スポーツの学び方】 1 スポーツの技術と戦術 2 技能の上達過程と練習			
2 学 期	選択Ⅱ 「球技」 「球技」	ネット型：サッカー ネット型：バレーボール			
	「陸上競技」	長距離走			
	「体育理論」	【運動スポーツの学び方】 3 効果的な動きのメカニズム 4 技能と体力			
3 学 期	選択 「球技」	ゴール型：バスケットボール ネット型：バドミントン			
	「体育理論」	【運動スポーツの学び方】 5 体力トレーニング 6 運動やスポーツでの安全の確保			
評 価 方 法	観点別評価				
	①知識・技能 (20・50)		②思考力・判断力・表現力 (10)		①学びに向かう力、人間性等(20)
	定期考査、運動の実践による成果 (実技テスト)		定期考査、授業態度、 ワークシート (課題設定・修正力、課題解決力、 危機管理能力、)		授業態度 (主体性、公正、協力、責任、 参画、共生、健康・安全)
備考					

教科	体育	科目名	体育	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	必履修		
進路	特になし				
学習目標	・健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に応じた運動の計画をたて、生涯を通じて運動を継続する力を養う。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	「体づくり運動」 選択Ⅰ 「球技」 選択Ⅱ 「球技」 「水泳」  「体育理論」	集団行動・新体力テスト  ソフトボール 卓球  サッカー バレーボール 背泳ぎ、バタフライ  <b>【豊かなスポーツライフの設計】</b> 1 生涯スポーツの見方・考え方 2 ライフスタイルに応じたスポーツ			
2 学 期	選択Ⅲ 「球技」  「陸上競技」 選択Ⅲ 「球技」 「ダンス」  「体育理論」	ハンドボール テニス  長距離走  バドミントン バスケットボール 現代的なリズムのダンス  <b>【豊かなスポーツライフの設計】</b> 3 日本のスポーツの振興 4 スポーツと環境			
3 学 期	選択Ⅳ 「球技」 「ダンス」	バスケットボール バドミントン 現代的なリズムのダンス			
評 価 方 法	観点別評価				
	①知識・技能 (20・50)	②思考力・判断力・表現力 (10)	①学びに向かう力、人間性等 (20)		
	定期考査、運動の実践による成果 (実技テスト)	定期考査、授業態度、 ワークシート (課題設定・修正力、課題解決力、 危機管理能力、)	授業態度 (主体性、公正、協力、責任、 参画、共生、健康・安全)		
備考					

教科	体育	科目名	保健	単位数	1
履修年次	2年次	履修条件	必履修		
進路	特になし				
学習目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	生涯を通じる健康	1 思春期と健康 2 性意識と性行動の選択 3 結婚生活と健康 4 妊娠・出産と健康 5 家族計画と人工妊娠中絶 6 加齢と健康 7 高齢者のための社会的な取り組み 8 保健制度とその活用			
2 学期	生涯を通じる健康  社会生活と健康	9 医療制度とその活用 10 医薬品と健康 11 さまざまな保健活動  1 大気汚染と健康 2 水質汚濁と健康 3 健康被害の防止 4 環境衛生活動のしくみと働き			
3 学期	社会生活と健康	5 食品衛生活動のしくみと働き 6 食品と環境の保健と私たち 7 働くことと健康 8 労働災害と健康 9 健康的な職業生活			
評価 方法	観点別評価				
	①知識 (80)	②思考力・判断力・表現力 (10)	①学びに向かう力、人間性等(10)		
	定期考査	授業態度、ワークシート (課題設定・課題解決力)	授業態度 (主体性、公正、協力、責任、 参画、共生、健康・安全)		
備考					

教科	体育	科目名	生涯スポーツ	単位数	2
履修年次	2年次・3年次	履修条件	意欲的に取り組める生徒	上限人数	男女各20
進路	特になし				
学習目標	・ニュースポーツ、生涯スポーツ、野外活動、レクリエーションの領域の知識と技能を身につけるとともに、コミュニケーション能力の育成を目指し、リーダーシップを発揮することができる資質や能力を育てる。				
	単元名	学 習 内 容			
1学期	ニュースポーツ分野 生涯スポーツ分野 レクリエーション分野 野外活動分野	①ソフトバレーボール ②ターゲットゴルフ ③卓球 ④レクリエーション活動 ⑤野外自炊			
2学期		①インディアカ ②フライングディスク ③テニス ④指導法 ⑤野外レクリエーション			
3学期		①タッチラグビー ②フットサル ③バトミントン ④フォークダンス ⑤その他			
評価方法	観点別評価				
	①知識・技能 (20・50)	②思考力・判断力・表現力 (10)	①学びに向かう力、人間性等 (20)		
	定期考査、ワークシート、 運動の実践による成果 (実技テスト)	授業態度、ワークシート (課題設定・修正力、課題解決力、 危機管理能力)	授業態度 (主体性、公正、協力、責任、 参画、共生、健康・安全)		
備考					

教科	体育	科目名	スポーツⅡ	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	意欲的に取り組める生徒	上限人数	男女各30
進路	特になし				
履修条件	球技について高度に学ぶ意欲のある生徒。				
学習目標	・球技の特性についての理解と課題の解決を目指した計画的な運動の実践を通して、これらのスポーツの高度な技能と審判法を習得できるようにするとともに、生涯を通じて球技に親しむ実践力を養う。				
	単元名	学 習 内 容			
1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドボール</li> <li>・サッカー</li> <li>・卓球</li> <li>・バドミントン</li> <li>・バレーボール</li> <li>・テニス</li> <li>・バスケットボール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・歴史・特性</li> <li>・個人的技能</li> <li>・集団的技能</li> <li>・戦術</li> <li>・審判法</li> <li>・補強運動</li> <li>・技能を支えるトレーニング方法</li> <li>・応急処置法</li> </ul>			
2学期					
3学期					
評価方法	観点別評価				
	①知識・技能 (20・50)	②思考力・判断力・表現力 (10)	①学びに向かう力、人間性等(20)		
	定期考査、ワークシート、運動の実践による成果 (実技テスト)	定期考査、授業態度、ワークシート (課題設定・修正力、課題解決力、危機管理能力)	授業態度 (主体性、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全)		
備考					

教科	体育	科目名	スポーツⅢ(武道)
履修年次	2年次	履修条件	意欲的に取り組める生徒
進路	武道を真剣に学ぶ意欲のある生徒。 自他に対する安全の意識が高い生徒。		
履修条件	球技について高度に学ぶ意欲のある生徒。		
学習目標	・武道に主体的に取り組むと共に、相手を尊重する心を養い、礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けさせる。		
学期	単元名	学 習 内 容	
1学期	柔道 ・基本知識 ・投げ技の基本動作 ・固め技の基本動作 ・基本となる投げ技 ・抑え技 ・技の練習法	礼法、歴史、特性、柔道衣の扱い方 受身、姿勢、組み方、進退動作、崩し、体さばき 姿勢、攻撃、防御、返し方 膝車、大外刈り、体落とし、大腰 横四方固め、けさ固め、上四方固め 打ち込み、約束練習、自由練習 礼法、試合	
2学期	剣道 ・基本知識 ・基本動作 ・基本技術 ・仕かけ技 ・応じ技 ・試合稽古 ・日本剣道形	礼法、歴史、特性、竹刀、防具について 竹刀の握り方・間合い・素振り、足さばき 面打ち・小手打ち・胴打ち・残心 出ばな技・払い技・連続技 防ぎ方・返し技 小手一面、小手一胴、小手一面一胴	
3学期	まとめ 武道について	座学「武道について」	
評価方法	観点別評価		
	①知識・技能 (20・50) 定期考査、ワークシート、 運動の実践による成果 (実技テスト)	②思考力・判断力・表現力 (10) 定期考査、授業態度、 ワークシート (課題設定・修正力、課題解決力、 危機管理能力)	①学びに向かう力、人間性等(20) 授業態度 (主体性、公正、協力、責任、 参画、共生、健康・安全)
備考			

教科	体育	科目名	スポーツⅥ	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	意欲的に取り組める生徒	上限人数	20
進路	体育系学校への進学希望者				
学習目標	健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に応じた運動の計画をたて、生涯を通じて運動を継続する力を養う。				
	単元名	学 習 内 容			
1学期	体ほぐしの運動	オリエンテーション ストレッチ リズムカルな運動 疲労回復運動			
2学期	体力トレーニングの理論と実践	プル・トレーニング 最大筋力 週間頻度 筋肉優先法 種目間の筋肉反応と重量アップ セット間のインターバル 挙上テンポ 呼吸法 ベーシックプログラムⅠ ベーシックプログラムⅡ			
3学期	体力を高める運動	インターバルトレーニング（筋持久力を向上させる） レペティショントレーニング（瞬発力を向上させる） サーキットトレーニング（全身の筋力を効率よく向上させる） 有酸素トレーニング			
評価方法	観点別評価				
	①知識・技能（20・50）  定期考査、ワークシート、 運動の実践による成果 （実技テスト）	②思考力・判断力・表現力（10）  定期考査、授業態度、 ワークシート （課題設定・修正力、課題解決力、 危機管理能力）	①学びに向かう力、人間性等（20）  授業態度 （主体性、公正、協力、責任、 参画、共生、健康・安全）		
備考					

教科	音楽	科目名	音楽Ⅱ	単位数	2	上限人数	30
履修年次	2年次	履修条件	1年次に音楽Ⅰを履修していること				
進路	音楽系の進学						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽Ⅰで習得した基本的な技術を用いて、自分なりの音楽表現力を高める。</li> <li>・諸活動を通して音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を磨き、より深く音楽を鑑賞する力を身につける。</li> </ul>						
	単元名		学 習 内 容				
1学期	発声法 合唱の基礎 リズム 日本のこころ		姿勢・呼吸の仕方 「校歌」 「Best Friend」(2部合唱)  「リズム・アンサンブル」(ボディ・パーカッション)  「椰子の実」(斉唱) 「八木節パラフレーズ」(ヴォイス+パーカッション・アンサンブル) 「4度のリフ」(4重奏) 「主よ、人の望みの喜びよ」(4重奏)				
2学期	楽典 器楽(キーボード) 芸術歌曲を歌う 西洋音楽史・鑑賞 カンツォーネを歌う		音名、音符の名称・種類と価値、拍子記号、調号と主音、音程  「Ombra mai fu」(独唱)  「White Christmas」(2部合唱) 「クリスマス・メドレー」(5重奏)  「マイ・ウェイ」(2部合唱)				
3学期	季節の音楽  劇と音楽		ミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』から ・「すべての山に登れ」(2部合唱)  ミュージカル『美女と野獣』から ・「美女と野獣」(器楽2重奏)				
評価方法	観点別評価						
	①音楽への関心・意欲・態度 (30点)		②音楽表現の創意工夫 (20点)		③音楽表現の技能 (30点)		④鑑賞の能力 (20点)
	授業態度 20点 歌唱・演奏意欲 10点		演奏・歌唱技術 20点		演奏課題 10点 定期考査 20点		定期考査 20点
音楽に関する専門的な知識の習得を確認するため、授業中においても、実技、筆記試験等を実施し、評価の基礎材料とする。							
備考							

教科	音楽	科目名	音楽Ⅲ	単位数	2	上限人数	20
履修年次	3年次	履修条件	2年次に音楽Ⅱを履修していること				
進路	音楽系の進学						
学習目標	・多くの表現活動について深く探求し、感性を磨き、将来につながる豊かな感受性と能力を養う。						
	単元名		学 習 内 容				
1 学 期	みんなで歌おう  キーボード・アンサンブル  鑑賞  楽典		・「Imagine」 ・「Hey Jude」  ・「ぐるぐるピアノ」(3手連弾)  ・オペラ「カルメン」  音名、音符の名称・種類と価値、拍子記号、調号と主音、音程				
2 学 期	世界の愛唱歌  日本の歌  キーボード・アンサンブル  合唱の楽しみ		・「Greensleeves」(2部合唱) ・「Amazing Grace」(3部合唱)  ・「森の夜明け」  ・「日本の詩情」(5重奏)  ・「さびしいカシの木」(3部合唱)				
3 学 期	鑑賞		・ミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』				
評 価 方 法	観点別評価						
	①音楽への関心・意欲・態度 (30点)		②音楽表現の創意工夫 (20点)		③音楽表現の技能 (30点)		④鑑賞の能力 (20点)
	授業態度 20点 歌唱・演奏意欲 10点		演奏・歌唱技術 20点		演奏課題 10点 定期考査 20点		定期考査 20点
音楽に関する専門的な知識の習得を確認するため、授業中においても、実技、筆記試験等を実施し、評価の基礎材料とする。							
備考							

教科	音楽	科目名	演奏研究	単位数	2	上限人数	20
履修年次	2年次	履修条件	原則として読譜ができること				
進路	音楽系の進学						
学習目標	・多くの表現活動について深く探求し、感性を磨き、将来につながる豊かな感受性と能力を養う。また、各自の希望進路に必要な技能と、将来役立つと思われる技能を修得する。						
	単元名	学 習 内 容					
1 学 期	ポピュラーソングに親しもう  日本の四季を感じよう  世界の愛唱歌	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「TSUNAMI」(鍵盤 2重奏)</li> <li>・「アニメ・メドレー」(鍵盤 2重奏)</li> <li>・「日本の詩情」(鍵盤 5重奏)</li> <li>・「Amazing Grace」(ア・カペラ 2重唱)</li> <li>・「カノン」(鍵盤 4重奏)</li> </ul>					
2 学 期	アンサンブルを楽しもう  ピアノ演奏 ・入試などの課題曲、自由曲がある生徒は、その曲を中心にして練習する ・進路に関わらない生徒は、自分で演奏したい曲を決めて練習し、発表する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Face to Face ボディ・パーカッション</li> <li>・缶・勘・感～CAN BEAT～ パーカッションアンサンブル</li> <li>・入試に関わる実技は、試験のシュミレーションを行う</li> <li>・演奏上の注意点は適時指摘する</li> </ul>					
3 学 期	ミニ・コンサート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に選曲させ、練習、発表させる(個人、グループは問わない)</li> </ul>					
評 価 方 法	観点別評価						
	①関心・意欲・態度 (30点)	②発想や構想の能力 (20点)	③創造的な技能 (30点)	④鑑賞の能力 (20点)			
	授業態度 20点 演奏意欲 10点	演奏技術 20点	実技課題 30点	レポート 20点			
	<p>個々の技術力、表現力をまず優先して評価していく。ただし、個人差もあるため、授業に対する取り組み姿勢、出席状態等も配慮していく。</p> <p>各個人において、それぞれの目標レベルを設定し、その到達度によって評価するため、定期考査は実施しない。</p>						
備考							

教科	音楽	科目名	ソルフェージュ	単位数	2	上限人数	20
履修年次	3年次	履修条件	特になし				
進路	音楽系の進学						
学習目標	<p>・「聴音」「視唱」「視奏」の内容をそれぞれ関連付け、音楽的に表現するための基本的能力を養う。  また、多方面から音楽に取り組むことにより、音楽活動の総合的基礎能力を身に付け、各自の希望進路に必要な技能と、将来役立つと思われる技能を修得する。</p>						
	単元名	学 習 内 容					
1 学 期	C dur (4・8小節) ・4/4 拍子  ・4/2 拍子  ・4/3 拍子 総合課題・小テスト	一声・二声リズム課題 リズムつき視唱・視奏・聴音 ・完全1度～長3度音程(ド、レ、ミ、ファ、ドレ、ドレミ)  ・4分・8分音符、4分休符 ・完全1～完全5度音程 (ファ、ソ、ドレミファ、ドレミファソ)  ・長・短2～3度音程					
2 学 期	・長い音符、休符  ・6/8 拍子  ・臨時記号 (＃、b、♮ )  短調の旋律	・2分、付点2分、全音符・休符 ・長・短2～完全4度音程・短2度のある5度の間をうごく旋律 ・付点4分音符 ・タイ、シンコペーション ・アウトタクト  ・調号なし (a moll)					
3 学 期	調号のついた旋律  ・総合課題	・＃ 1つ (G dur/e moll)  ・b 1つ (F dur/g moll)					
評 価 方 法	観点別評価						
	①関心・意欲・態度 (30点)	②発想や構想の能力 (20点)	③創造的な技能 (30点)	④鑑賞の能力 (20点)			
	授業態度 20点 歌唱意欲 10点	歌唱技術 20点	実技課題 30点	レポート 20点			
	音楽、声楽に関する基礎的な技術の習得を定期的に確認し、それを主材料として評価する。また、音楽性豊かな表現能力を大切に評価する。						
備考							

教科	芸術	科目名	美術Ⅱ	単位数	2	上限人数	20
履修年次	2年次・3年次	履修条件	1年次において、美術Ⅰを履修していること				
進路	美術系の進学						
学習目標	・美術の創造的な諸活動を通して、美的感覚を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、美術文化についての理解を深め、個性豊かな美術の能力を高める。						
	単元名	学 習 内 容					
1 学 期	(オリエンテーション) 楽しさを描く  (デザイン) 漫画技法 ～漫画を描いてみる～	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が今、好きな事柄、物、言葉等を、様々な描写用具を使用し、自由に画用紙に描く</li> <li>現代における日本の身近なアート・デザインについて学ぶ <ul style="list-style-type: none"> <li>◆漫画制作に使う用具の使い方を学び、漫画を模写、制作し漫画の表現方法を学ぶ</li> </ul> </li> </ul>					
2 学 期	(絵画) 鉛筆デッサンⅡ ～静物デッサン～  日本の美術  (鑑賞) 日本美術の鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆を使った細密描写(デッサン)で、静物モチーフを描く方法を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> <li>◆鉛筆による様々なモチーフの質感表現方法を学ぶ</li> </ul> </li> <li>日本独自の絵画技法を学び、表現にとり入れた作品を制作する <ul style="list-style-type: none"> <li>◆様々な日本固有の色を学ぶ</li> <li>◆日本独自の絵画の展示方法などを学ぶ</li> </ul> </li> <li>日本美術の作品をビデオ等で鑑賞する</li> </ul>					
3 学 期	(鑑賞) 1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作した作品を鑑賞し、1年を振り返る</li> </ul>					
評 価 方 法	観点別評価						
	①関心・意欲・態度 (30点)	②発想や構想の能力 (30点)	③創造的な技能 (30点)	④鑑賞の能力 (10点)			
	作品制作 授業態度・提出物	作品制作	作品制作	レポート・感想			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出物は、各課題時に配布されたプリント、作品の提出状況进行评估する</li> <li>定期考査は行わないが、授業での作品制作、完成は重視して評価する。</li> </ul>						
備考	年間教材費として3,000円必要						

教科	芸術	科目名	書道Ⅱ	単位数	2	上限人数	20
履修年次	2年次	履修条件	1年次に書道Ⅰを履修していること。				
進路	特になし						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書道Ⅰで習得した基礎的な能力の学習の上に立ち、書の創造的で個性豊かな表現に関心を持ち、表現と鑑賞能力を伸ばす。</li> <li>・またそれらを相互に関連づけて書的美を味わいながら書の文化や伝統を理解し、書的美に親しむ心を養う。</li> </ul>						
	単元名		学 習 内 容				
1学期	行書 楷書	作品制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楷書の臨書学習（張猛龍碑、薦季直表、爨宝子碑、始平公造像記、賢愚經）</li> <li>・行書の臨書学習（集王聖教序、温泉銘、季柏尺片牘稿、灌頂歷名、蜀素帖）</li> </ul>				
2学期	草書 隸書 篆書		<ul style="list-style-type: none"> <li>・草書の臨書学習（書譜、十七帖、自叙帖、忽恵帖）</li> <li>・隸書について 隸書の臨書学習</li> <li>・時代の変遷順に文字の進化とその美を探る 甲骨文→金文→大篆→小篆</li> <li>・用筆法とその時代</li> <li>・臨書学習</li> </ul>				
3学期	篆書 仮名 篆刻	漢字仮名交じりの書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・篆書の臨書学習（石鼓文）</li> <li>・古筆の臨書（粘葉本和漢朗詠集） 作品制作、半切1/2、1/3</li> <li>・漢字作品創作（半切）</li> <li>・篆刻（名印）</li> </ul>				
評価方法	観点別評価						
	①書への関心・意欲・態度 (50点)	②書表現の構想と工夫 (20点)	③創造的な書表現の技能 (20点)	④鑑賞の能力 (10点)			
	授業態度 30点 提出物の有無 20点	課題の技術 20点	課題の技術 20点	レポート 10点			
	出席状況や取組む姿勢を重視し、毎時間の提出作品での理解度や達成度を評価する。						
備考							

教科	外国語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	4
履修年次	2年次	履修条件	必履修		
進路	すべての進路に対応				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。</li> <li>英語を通じて、言語や文化への理解を深める。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	Lesson1	“Ambassador of World Peace” 現在完了形（受け身と進行形）の復習、関係副詞 where, when, why, how の復習			
	Lesson2	“Dogs as Human Companions” 形式主語 it（that 節や to 不定詞を指すもの）の復習、過去完了形の復習、比較を使ったさまざまな表現			
	Lesson3	“The Past, Present and Future of Umbrellas” S+V+C(=that 節または疑問詞節)、 S+V+C(=現在分詞や過去分詞)、 S+V+(O)+O(=if, whether 節)			
2 学 期	Lesson4	“Different Ways to Enjoy Art Museums” S+V+O+C(=現在分詞または原形不定詞)の復習、 S+V+O+C(=過去分詞)、形式目的語 it(to 不定詞を指すもの)、形式目的語 it(that 節を指すもの)			
	Lesson5	“How Climate Changes Are Affecting Us” seem+to 不定詞、to 不定詞の完了形、 It+seems(appears)など+that 節、過去完了進行形			
	Lesson6	“English Textbooks from Around the World” 強調構文、倒置構文、動名詞の受け身、 助動詞+完了形			
	Lesson7	“The Hayabusa Project” 関係代名詞の非制限用法、関係代名詞 whose、 前置詞+関係代名詞、 関係副詞 where,when の非制限用法			
3 学 期	Lesson8	“The Origin of Santa Claus” 仮定法過去の復習、仮定法過去完了、 さまざまな譲歩の表現、同格を表す that			
	Lesson9	“The Only Japanese on the Titanic” 分詞構文（現在分詞）の復習、 付帯状況を表す with、分詞構文（完了形）、 分詞構文（過去分詞）			
	Lesson10	“Japanese Agriculture Is Changing” 進行形の受け身、which の非制限用法（前の 節の内容全体を受けるもの）、未来進行形、 未来完了形			
評 価 方 法	観点別評価				
	①コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 (20点)	②外国語表現の能力 (30点)	③外国語理解の能力 (30点)	④言語や文化について の知識・理解 (20点)	
	提出物 10点 予習 10点	パフォーマンス 10点 定期考査 20点	小テスト 10点 定期考査 20点	定期考査 20点	
備考	ALTとの授業あり				

教科	外国語	科目名	英語表現 I	単位数	2
履修年次	2年次	履修条件	特になし		
進路	すべての進路に対応				
学習目標	英語を通じて、様々な場面において事実や意見を表現の方法を工夫しながら伝える能力を養うこと。表現方法を学習することで、入試に必要な力も身につける。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	Lesson1	紹介 文の種類（平叙文、疑問文、命令文、感嘆文）			
	Lesson2	興味、関心 文型と動詞（5つの文型、自動詞、他動詞）			
	Lesson3	旅行 時制（現在、過去、進行形、未来の表現）			
	Lesson4	スポーツ 完了形、完了進行形（現在、過去）、未来完了形			
2 学 期	Lesson5	食事 ささまざまな助動詞			
	Lesson6	観光 ささまざまな受動態の表現			
	Lesson7	交際 不定詞の基本と応用表現			
	Lesson8	娯楽 動名詞を用いたさまざまな表現／動名詞・不定詞と目的語			
3 学 期	Lesson9	ルール 分詞を用いたさまざまな表現			
	Lesson10	文化 関係代名詞／関係代名詞の非制限用法			
	Lesson11	社会問題 ささまざまな比較表現			
	Lesson12	悩み事 直説法と仮定法／さまざまな仮定法の表現			
評 価 方 法	観点別評価				
	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度（20点）	②外国語表現の能力（30点）	③外国語理解の能力（30点）	④言語や文化についての知識・理解（20点）	
	提出物 10点 レポート 10点	パフォーマンステスト10点 定期考査 20点	定期考査 30点	定期考査 20点	
備考	ラーナーズ高校英語（参考書）も使用				

教科	英語	科目名	英語表現Ⅱ	単位数	4
履修年次	3年次	履修条件	2年次で英語表現Ⅰを履修した生徒		
進路	看護・医療、4年制大学進学希望者				
学習目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	Part 1 Lesson 1・2 Lesson 3・4 Lesson 5・6 Lesson 7・8 Lesson 9・10	School Festival 現在・過去 / 進行形 A Trip to Sapporo 未来表現 My Dear Friend 現在完了形 / 現在完了進行形 Online Shopping 過去完了形・進行形 / 未来完了形 A Dog in a Barbershop 助動詞 A Favorite Saying 文型 Japanese Food 受け身 Visiting Spain 不定詞① Volunteer Activities 不定詞② A Stage Actor 不定詞③			
	Part2 Lesson 1・2 Lesson 3・4 Lesson 5・6 Lesson 7・8	What's Your Favorite Dish? 好き嫌いを述べる A Guitar Concert 勧誘する・招待する, 期待する Uniforms or Casual Clothes? 希望・欲求を述べる Studying Abroad 計画・意図を述べる After School 義務・必要を述べる A Korean Drama 程度や譲歩を述べる Going Bird Watching 依頼・要請を行う Meeting the Deadline 許可を求める			
2 学期	Part1 Lesson 11・12 Lesson 13・14 Lesson 15・16 Lesson 17・18 Lesson 19・20	I Like Singing 動名詞 Cycling 分詞 My New Hiking Boots 比較① The Yangtze River 比較② My Sister's Job 関係詞① In Seattle 関係詞② Taking Notes 関係詞③ Dreaming of Space 仮定法① An Android Like You 仮定法② I left My Smartphone 時制の一致・話法			
	Part2 Lesson 9・10 Lesson 11・12 Lesson 13・14 Lesson 15・16	Part2 Why Do We Study English? 原因・理由・目的を述べる Friendship Festival 感謝・喜びを述べる Returning a Magazine 謝罪する・謝罪に応じる You Have My Sympathy 同情する・励ます What Should I Do? 提案・助言を行う Project Studies Program 賛成・反対を述べる What Is Your Opinion? 個人的な意見を述べる Cloning 予想・可能性を述べる			
3 学期	Part1 Lesson 21・22	Student Council Election 否定・強調 Think Green 無生物主語・名詞構文			
評価 方法	観点別評価				
		①関心・意欲・態度 (30点)	②外国語表現の能力 (20点)	③外国語理解の能力 (30点)	④言語や文化についての知識・理解 (20点)
	提出物 レポート	(20) (10)	定期考査 (20)	定期考査 パフォーマンステスト (10)	定期考査 (20)
備考	ラーナーズ高校英語(参考書)も使用				

教科	外国語	科目名	英語会話	単位数	2
履修年次	2年次・3年次	履修条件	積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒		
進路	すべての進路に対応				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーキング活動を通じた実践的コミュニケーション能力を培う。</li> <li>・発表を通じて表現力を高める。</li> <li>・ALTと英語で情報交換や意思疎通する力を培う。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	Lesson 1	Nice to meet you	(自分や友達を紹介する)		
	Lesson 2	Hello, Friends! ※パフォーマンステスト (歌)	(自分や友達を紹介する)		
	Lesson 3	My favourite music	(好きなことについて話し合う)		
	Lesson 4	What are you crazy about? ※パフォーマンステスト (ドラマ)	(好きなことについて話し合う)		
2 学 期	Lesson 5	A Friendly Potluck Dinner	(食べ物や健康について話し合う)		
	Lesson 6	Are you all right? ※パフォーマンステスト (ディスカッション)	(食べ物や健康について話し合う)		
	Lesson 7	Talking about our town	(自分の住む街と伝統文化について話し合う)		
	Lesson 8	Traditional culture ※パフォーマンステスト (コマーシャル)	(自分の住む街と伝統文化について話し合う)		
3 学 期	Lesson 9	Equal Roles	(自分たちと地球の将来について話し合う)		
	Lesson 10	Helping each other ※パフォーマンステスト (スピーチ)	(自分たちと地球の将来について話し合う)		
評 価 方 法	観点別評価				
	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 (30点)	②外国語表現の能力 (30点)	③外国語理解の能力 (20点)	④言語や文化についての知識・理解 (20点)	
	コミュニケーション活動 20点	パフォーマンステスト 20点 スピーキングテスト 10点	リスニングテスト 10点 考査 20点	考査 20点	
備考	週単位のうち1単位はALTの授業				

教科	外国語	科目名	英文読解	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	特になし		
進路	すべての進路に対応				
学習目標	・「コミュニケーション英語Ⅱ」で身につけた英語力を発展させ、進学・就職のどちらに対しても対応できる総合的な英語の学力をつける。				
	単元名				
1学期	Lesson 1 Lesson 2 Lesson 4 Lesson 5 Lesson 6 Lesson 7	Kimetsu no Yaiba Boom Our Lives During COVID-19 50 Years of Kamen Rider The Sea Is Full of Treasures Mixed Culture in Spain Hanyu Yuzuru: Figure Skater			
2学期	Lesson 3 Lesson 8 Lesson 9 Lesson 10 Lesson 11 Lesson 12	History of Halloween High School Udon Ambassadors The Peaceful Sloth Reducing Plastic Waste Moments of Happiness The First Teddy Bear			
3学期	Lesson 13 Lesson 14	Food Banks Offshore Wind Farmers in Denmark			
評価方法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (20点)	②外国語表現の能力 (30点)	③外国語理解の能力 (30点)	④言語や文化についての知識・理解 (20点)	
	提出物 10点 音読テスト 10点	定期考査 30点	小テスト 10点 定期考査 20点	定期考査 20点	
備考	教科書はありませんが、ワークを購入する必要あり				

教科	英語	科目名	総合英語	単位数	4
履修年次	3年次	履修条件	2年次にコミュニケーション英語Ⅱ、英語表現Ⅰを履修した生徒。		
進路	すべての進路に対応する。資格取得に意欲があるものが望ましい。				
学習目標	・2年次までに身につけた英語力を発展させ、実用英語技能検定準2級以上、全商英語検定試験1級の資格取得を目指す。				
	単元名	学 習 内 容			
1学期	全商英検2級 演習問題	演習 <b>Part1 Listening・Speaking</b> (アクセント・英問英答・聞き方〔絵と対話文・短文・内容一致・会話文〕)  <b>Part2 Reading</b> (長文・会話文)  <b>Part3 Writing</b> (適語選択・語形変化・語順整序)  <u>*第1回実用英語技能検定(6月)</u>			
2学期	全商英検1級・ 実用英検 演習問題	演習  全商英検、実用英語技能検定等の演習を中心に行う  <u>*第1回全商英語検定試験(9月)</u> <u>*第2回実用英語技能検定(10月)</u> <u>*第2回全商英語検定試験(12月)</u>			
3学期	演習問題	演習  資格試験等の演習を中心に行う  <u>*第3回実用英語技能検定(1月)</u>			
評価方法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (30点)	②外国語表現の能力 (20点)	③外国語理解の能力 (30点)	④言語や文化についての知識・理解(20点)	
	提出物(10) 小テスト(20)	定期考査(20)	パフォーマンステスト (10) 定期考査(20)	定期考査(20)	
備考	教科書はありませんが、問題集等を購入する必要があります。				

教科	外国語	科目名	英語理解	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	2年次に英語表現Ⅰを修得していること		
進路	看護・医療、4年制大学進学希望者				
学習目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 英文の読解力とリスニングの力を身に着ける。 2年次に学んだ英文法の知識を定着させる。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	Lesson 1	文の種類			
	Lesson 2	文型			
	Lesson 3	時制			
	Lesson 4	完了形			
	Lesson 5	助動詞			
	Lesson 6	受動態			
	Lesson 7	不定詞 (1)			
	Lesson 8	不定詞 (2)			
	Lesson 9	不定詞 (3)			
	Lesson 10	動名詞			
	Lesson 11	分詞			
	Lesson 12	不定詞・動名詞・分詞			
2 学 期	Lesson 13	比較 (1)			
	Lesson 14	比較 (2)			
	Lesson 15	関係代名詞 (1)			
	Lesson 16	関係代名詞 (2)			
	Lesson 17	関係副詞			
	Lesson 18	仮定法			
	Lesson 19	時制の一致・話法			
	Lesson 20	名詞・冠詞			
	Lesson 21	代名詞			
	Lesson 22	形容詞・副詞			
	Lesson 23	前置詞・群前置詞			
	Lesson 24	接続詞 (1)			
3 学 期	Lesson 25	接続詞 (2)			
	Lesson 26	否定			
	Lesson 27	特殊構文			
評 価 方 法	観点別評価				
	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 (20点)	②外国語表現の能力 (30点)	③外国語理解の能力 (30点)	④言語や文化についての知識・理解 (20点)	
	提出物 10点 課題 10点	定期考査 20点 小テスト 10点	定期考査 20点 小テスト 10点	定期考査 20点	
備考	副教材として「英語速読演習Mileage Reader①」を使用する。				

教科	外国語	科目名	異文化理解	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとすること、国内外の文化に興味・関心があることが望ましい。		
進路	すべての進路に対応				
学習目標	・英語の学習を通して自国及び世界の人々の日常生活、風俗習慣、歴史、伝統文化について理解を深め、これらを尊重する態度を育てる。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	日本と世界の比較	国内外のサブカルチャーや社会問題などについて学び、考え方の違いや興味関心などを調査し、発表やレポート作成を行う。 Topic1 Is Subculture Truly “Sub-” culture? Topic2 Why Not Try a Digital Detox? Topic3 Food Dishes Into and Out of Japan			
2 学期	日本と世界の比較	Topic4 Do You Believe in Fortune-telling? Topic5 Sustainable Use of Tuna and Eel Topic6 Is Space Exploration Worth the Cost? Topic7 Are 24-hour Convenience Stores Really Necessary? Topic8 Will Robots Brighten Our Future?  学んだことを基にテーマを設定し、発表の準備を行う。			
3 学期	1、2学期のまとめ	発表			
評価 方法	観点別評価				
	① 関心・意欲・態度 (20点)	② 外国語表現の能力 (20点)	③ 外国語理解の能力 (20点)	④ 言語や文化についての知識・理解 (40点)	
	提出物 10点 発表 10点	定期考査 10点 発表 10点	定期考査 20点	定期考査 20点 レポート 20点	
備考	英語の科目であり、英文を扱うことを理解したうえで受講すること。				

教科	商業	科目名	ビジネス基礎	単位数	2
履修年次	2年次	履修条件	特になし		
進路	就職				
学習目標	ビジネスに関する基礎的な知識を習得する ビジネスについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	1章 商業の学習ガイダンス 1 21世紀にはばたく 2 しっかり楽しく学んでいこう	1 ビジネスの世界で活躍、2 ビジネスに必要な心がまえ 1 学習内容のアウトライン、2 どのように学んでいけばよいのか			
	2章 経済と流通の基礎 1 経済のしくみとビジネス  2 社会の変化とビジネスの発展  3 経済活動と流通	1 わたしたちの生活と経済、2 経済を支えるビジネス、 3 経済活動の基本的な考え方  1 サービス経済化とビジネス、2 情報化とビジネス、3 グローバル化とビジネス、 4 社会的課題とビジネスチャンス 1 流通の意味、2 流通の役割、3 流通機構、4 流通をとりまく環境の変化			
	3章 ビジネスの担い手 1 ものの生産者 2 サービスの生産者  3 小売業 4 卸売業 5 物流業 6 金融業 7 情報通信業	1 生産者の役割、2 生産者の種類、3 生産者のビジネス、4 生産者の動向  1 小売業の役割、2 小売業の種類、3 小売業のビジネス、4 小売業の動向 1 卸売業の役割、2 卸売業の種類、3 卸売業のビジネス、4 卸売業の動向 1 物流業の役割、2 物流業の種類、3 物流業のビジネス、4 物流業の動向 1 金融業の役割、2 金融業の種類、3 金融業のビジネス、4 金融業の動向 1 情報通信業の役割、2 情報通信業の種類、3 情報通信業のビジネス、 4 情報通信業の動向			
2 学 期	4章 企業活動の基礎 1 ビジネスと企業 2 資金調達と企業 3 企業活動と税 4 雇用  5 企業倫理	1 ビジネスの担い手である企業、2 企業の経営組織 1 ビジネスに必要な資金、2 資金調達の方法 1 企業が納める税、2 税の納め方 1 雇用の意義、2 我が国における雇用の特徴、3 さまざまな雇用形態、 4 雇用にともなう企業の責任、5 すべての人が誇りを持って働くために 1 企業活動と倫理観、2 利益の追求と企業不祥事、 3 企業不祥事を起こさないために			
	5章 ビジネスと売買取引 1 売買取引の手順  2 代金決済	1 売買契約の締結と履行、2 売買契約の条件、3 売買契約の締結、 4 売買契約の履行 1 現金通貨、2 小切手、3 約束手形、4 為替手形、 5 さまざまな代金決済の方法			
3 学 期	6章 売買に関する計算 1 売買に関する計算の基礎 2 売買に関する計算の応用	1 割合、2 商品の数量と代価、3 仕入れ原価と売価（販売価格） 1 度量衡の換算、2 外国貨幣の換算、利息の計算			
	7章 ビジネスとコミュニケーション 1 コミュニケーション 2 ビジネスマナー 3 情報の入手と活用	1 コミュニケーションの役割、2 コミュニケーションの種類、3 話し方聞き方 1 ビジネスマナーの重要性、2 社会人としての自覚、3 基本的なビジネスマナー、 4 場面に応じたビジネスマナー 1 情報入手の方法、2 情報を入手する際の注意点、3 ビジネスにおける情報の活用			
評 価 方 法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (10点)	②思考・判断・表現 (30点)	③技能 (20点)	④知識・理解 (40点)	
	授業態度・提出物 10点	グループワーク 10点 定期考査 20点	定期考査 20点	定期考査 40点	
備考					

教科	商業	科目名	総合実践	単位数	3
履修年次	3年次	履修条件	ビジネス基礎を履修した生徒 簿記3級以上を取得した生徒が望ましい 年間を通じて正装で臨む		
進路	進学（商業・経済・経営系） 就職				
学習目標	小売業に関する仕入・販売取引を模擬的に行い、実務に応用できる能力と態度を育てる。 売買取引の会計処理や株式の模擬売買、市場調査による報告書作成を行い、ビジネス社会の理解を深める。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	総合実践の学習 にあたって	オフィスの仕事と総合実践の学習 学習目標と内容、学習方法、学習上の心得			
	応対の心得	応対の一般的心得、話しかたと言葉づかい、来客との応対、電話による応対			
	文書の作成	事務における文書の重要性、事務用文書の役割と特質、文書作成の基本 通信文書の作成、取引に用いられる文書			
2 学 期	代金の支払い	小切手による支払い、手形による支払い、振込による支払い 取引商品、流通経路、帳簿組織、勘定科目 企業の名称・所在地・取引銀行、各勘定残高			
	仕入取引 (実践あり)	値段の問い合わせ 商品の発注 商品の受け取り 代金の支払い			
	販売取引 (実践あり)	値段の見積もり 商品の受注 商品の発送 代金の受け取り			
	取引のまとめ	諸経費の支払いなど 伝票の集計と転記 決算			
	取引演習	取引商品、流通経路、帳簿組織、勘定科目 企業の名称・所在地・取引銀行			
3 学 期	総合取引演習 (一連の流れ)				
	総合取引演習 (決算)				
評 価 方 法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (20点)	②思考・判断・表現 (10点)	③技能 (20点)	④知識・理解 (50点)	
	出席・授業態度 10点 提出物 10点	授業中の発表 10点	実習・演習 20点	定期考査 50点	
備考	希望者は、2月全国商業高等学校協会主催商業経済検定（ビジネス基礎）3級を受験。				

教科	商業	科目名	ビジネス実務	単位数	2
履修年次	2年次・3年次	履修条件	特になし		
進路	就職				
学習目標	ビジネスにおける基本実務とコミュニケーションの意義を理解する。 数の表現、記入法など数の扱い方について理解し、ビジネス計算の基礎を身につける。 電卓によるタッチメソッドで四則計算ができるようにする。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	ビジネスと珠算	各部の名称と機能			
	電卓の基礎	指の分担やキータッチ			
	普通計算	加減算の練習と反復			
	加減乗除算	乗除算の練習と反復			
	ビジネス計算	貨幣の換算 度量衡の換算      割合の計算      損益計算 単利計算      手形割引の計算			
	ビジネスマナー	挨拶   訪問・来客の応対   電話の応対   交際のマナー			
2 学 期	普通計算	加減乗除算 桁数5～11桁での計算			
	ビジネス計算	ビジネス計算発展 売買・損益の計算      単利計算      手形割引の計算 複利計算・減価償却費の計算 複利年金の計算      証券投資の計算      経営分析の計算			
	ビジネスコミュニケーション	ディスカッション   プレゼンテーション   販売 ディベート   ビジネス文書			
3 学 期	オフィス業務	業務の進行方法 スケジュール管理 オフィス環境の整備 資料管理の方法 会議 給与計算の方法 ソフトウェアの業務への活用			
評 価 方 法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (10点)	②思考・判断・表現 (20点)	③技能 (30点)	④知識・理解 (40点)	
	出席・授業態度   5点 提出物                    5点	定期考査                    20点	定期考査      10点 実習・演習      10点 小テスト      10点	定期考査      40点	
備考	全商ビジネス計算実務検定1、2級の取得を目指す。				

教科	商業	科目名	マーケティング	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	他の商業経済検定科目(ビジネス経済・ビジネス経済応用・経済活動と法・商品開発)を1科目以上履修することが望ましい。		
進路	進学(経営・商学系大学) 就職				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティングに関する知識と技術を習得して、マーケティングの意義・役割について、学びが実社会に活かされていることを知る。</li> <li>・マーケティング活動を計画的・合理的に行う能力と態度を育成する。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	現代市場とマーケティング	現代市場の特徴 マーケティングの概要			
	市場調査	市場調査の意味 市場調査の手順 実態調査の方法			
	消費者行動	消費者行動と購買 購買意思決定過程 製品のライフサイクルと普及			
2 学 期	販売計画	販売計画と販売予測 販売計画の立案・実施・統制			
	製品計画	製品計画の概要 製品ミックスと製品政策			
	仕入計画と商品管理	仕入計画 商品管理			
	販売価格	販売価格の決定 価格戦略			
3 学 期	販売経路	販売経路の設定 販売経路の強化			
	販売促進	販売促進の重要性 広告・販売員活動 ブランド 信用販売・その他の販売促進			
評 価 方 法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (15点)	②思考・判断・表現 (40点)	③技能 (10点)	④知識・理解 (35点)	
	出席・授業態度 10点 提出物 5点	定期考査 30点 ノート・レポート10点	定期考査 10点	定期考査 35点	
備考	全商商業経済検定2級(2月実施：マーケティング)の取得を目指す。				

教科	商業	科目名	商品開発	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	特になし		
進路	・商業系大学進学 専門学校 就職				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品開発に関する知識と技術を習得させる。</li> <li>顧客満足を実現することの重要性について理解させる。</li> <li>商品を企画・開発し、流通活動を行う能力と態度を育てる。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1学期	1.商品と商品開発 2.商品の企画 3.商品の開発  実際に開発する	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品開発の意義と手順</li> <li>商品開発の方針とテーマの決定</li> <li>商品コンセプトの立案</li> <li>商品仕様の詳細設計</li> <li>試作品の作成と評価</li> <li>事業計画の立案</li>   <li>主にグループワークを行う。</li> <li>基礎知識として、外部講師から特別講義を受ける。</li> <li>地元企業や中小企業診断士の方と連携し、実際に販売できる商品のアイデアを考える。</li> </ul>			
2学期	実際に開発する	<ul style="list-style-type: none"> <li>主にグループワークを行う。</li> <li>市場調査</li> <li>企業と連携して、オリジナルの商品を考える。</li> <li>応用知識として、外部講師から特別講義を受ける。</li> <li>シミュレーション</li> </ul>			
3学期	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間のまとめ</li> <li>結果報告</li> </ul>			
評価方法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (20点)	②思考・判断・表現 (30点)	③技能 (30点)	④知識・理解 (20点)	
	授業態度 10点 レポート 10点	実習・演習 30点	実習・演習 20点 レポート 10点	レポート 20点 (定期考査含む)	
備考	<p>実際に企業と連携してビジネスアイデアや商品を開発する。  <u>グループワークを行うため、積極的に発言できる生徒・協調性が身に付いていることが望ましい。</u>  <u>外部の人と接する機会が多いので、マナー（服装・挨拶・時間）がしっかりとしているもの。</u>  夏休みに活動してもらうことがある。</p>				

教科	商業	科目名	経済活動と法	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	他の商業経済検定科目(ビジネス経済・ビジネス経済応用・マーケティング・広告と販売促進・商品開発)を1科目以上履修することが望ましい。		
進路	進学(商業系大学)、就職				
学習目標	ビジネスに必要な法規に関する基礎的な知識を習得させ、経済社会における法の意義や役割について理解し、経済事象を法律的に考え、適切に判断して行動する能力と態度を育成する。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	1章 経済社会と法 1 変化発展する経済社会と法  2章 権利・義務と財産権 1 権利・義務とその主体  2 物と財産権 3 知的財産権  3章 財産権と契約そしてその保護 1 財産権と契約 2 物の売買 3 物の貸借 4 契約によらない財産権変動 5 財産権の保護	1 経済活動における法の役割、2 法の意義と体系、 3 経済環境など社会の変化と法、4 法の適用と解釈  1 権利と義務、2 権利と義務の主体、3 自然人の権利能力、 4 自然人の行為能力と制限行為能力者制度、5 法人 1 物、2 財産権とその種類 1 知的財産とその保護、2 知的財産権とその種類、3 工業所有権、 4 アートに関する知的財産権  1 取引と契約、2 契約の一般原則、3 契約と意思表示、4 契約の分類 1 売買、2 不動産の売買、3 動産の売買、4 債権の売買、5 売買契約の保証 1 消費貸借、2 賃貸借、3 宅地の貸借、4 建物の貸借、5 使用貸借 1 時効の制度、2 所有権の取得できる特別な場合、 3 債権・債務が消滅する特別な場合 1 物件の保護、2 債権の保護、3 債権の担保、4 不法行為			
2 学 期	4章 企業活動に関する法 1 企業活動の主体 2 営業活動の自由と制限 3 株式会社と法  5章 取引に関する法 1 手形・小切手と法  2 金融取引	1 民法と商法、2 商行為 1 営業自由の原則、2 営業自由の制限 1 会社の種類、2 株式会社の特徴と株主の有限責任、3 株式会社設立の手続き 4 発起人と設立時取締役の責任、5 株式と株主の権利、6 株式の種類、 7 株式の譲渡、8 株式会社の機関とその責任、9 株式総会、 10 取締役・取締役会・代表取締役、11 取締役の義務と責任、12 監査役、 13 会計参与、14 会計監査人、15 委員会を置く株式会社、16 資金調達、 17 企業再編成、18 会社関係書類の電子化と電子公告  1 手形・小切手の意義と性質、2 手形行為・小切手行為、3 約束手形、 4 為替手形、5 小切手、6 手形・小切手と企業活動 1 金融取引の現状と課題、2 金融商品取引、 3 電子記録債権、4 電子資金移動の現状と課題			
3 学 期	6章 企業の責任と法 1 法令遵守 2 消費と法  3 労働と法  4 紛争の予防と解決	1 法令遵守、2 企業における法令遵守の重要性、3 説明責任 1 消費者の保護に関する法律、2 消費者の安全、3 生活に身近な特殊売買、 4 消費者信用、5 販売方法の多様化と消費者の保護 1 労働に関する一般法、2 労働に関する特別法、 3 その他の労働に関する特別法、4 働く者の福祉 1 紛争の予防、2 紛争の解決、3 強制執行			
評 価 方 法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (20点)	②思考・判断・表現 (20点)	③技能 (20点)	④知識・理解 (40点)	
	授業態度 10点 提出物 10点	授業中の発表 10点 定期考査 10点	レポート 10点 定期考査 10点	定期考査 40点	
備考	全商商業経済検定2級(2月実施:経済活動と法)の取得を目指す。				

教科	商業	科目名	ビジネス経済	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	特になし		
進路	進学(経営・商学系大学 専門学校) 就職				
学習目標	ビジネスに必要な経済に関する基礎的な知識を習得する 経済の仕組みや概念について理解する 経済事象を主体的に考える能力と態度を身につける				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	1. 市場と経済	1節 資源配分のしくみ 2節 サービス産業の現状			
	2. 需要と供給	1節 需要の概念と需要の変化 2節 供給の概念と供給の変化			
	3. 価格決定と市場の役割	1節 価格決定のしくみ			
2 学期	4. 経済成長と景気循環	2節 市場の役割と課題 1節 GDP(国内総生産) 2節 経済循環 3節 物価と実質GDP 4節 経済成長 5節 景気変動とインフレーション			
	5. 経済政策	1節 財政			
3 学期	5. 経済政策 検定問題	1節 財政 過去問			
評価 方法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (10点)	②思考・判断・表現 (30点)	③技能 (20点)	④知識・理解 (40点)	
	出席・授業態度 10点	定期考査 20点 提出物 10点	定期考査 20点	定期考査 40点	
備考	小テストを行うので継続した学習が必要 2月に実施する「商業経済検定」(ビジネス経済A)の取得を目指す				

教科	商業	科目名	ビジネス経済応用	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	特になし		
進路	商業系大学進学 専門学校 就職				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業の経営・経済活動に関する基礎的・基本的な知識を習得し、国際社会の一員としての心構えを習得する。</li> <li>サービス経済社会の諸活動に適切に対応する能力と態度を育成する。</li> <li>地域ビジネス事情について調査し、身近な産業の動向や資源について調べる。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	第一章 「サービス経済化とサービス産業」 1節 産業構造の変化と労働 2節 サービス産業の現状  第二章 「経済の国際化」 1節 企業の国際化・グローバル化 2節 国際化の発展と国際収支 3節 貿易の利益と課題 4節 国際資本移動 5節 外国為替	(1) 産業構造の変化 (2) 労働市場の変化 (3) 消費構造の変化 (4) 経済発展とサービス産業の現状 (5) 新しいビジネスチャンスが発見  (1) 国際化からグローバル化へ (2) グローバル化の主体 (3) わが国のグローバル化 (4) 地域経済統合 (5) 国際収支の構造 (6) 国際収支と国内総生産 (7) 債権国と債務国 (8) 貿易の役割・構造の変化 (9) 国際資本移動の形態・役割 (9) 金融のグローバル化 (10) アメリカとヨーロッパにおける金融問題 (11) 世界経済の安定を目標とした金融規制 (12) 外国為替のしくみ・変動要因・種類 (13) 為替リスク			
	2 学 期  第三章 「金融市場と資本市場」 1節 金融取引の発達 2節 貯蓄と投資の動向 3節 金融市場と資本市場の役割 4節 金融市場と資本市場の課題  第四章 「企業経営」 1節 企業経営の特色 2節 企業経営と外部環境 3節 企業の社会的責任 4節 企業の海外進出と経営  第五章 「ビジネスの創造と地域産業の振興」 1節 起業の手続き 2節 新たなビジネスの展開	(1) 金融取引とは何か・現状 (2) 直接金融と間接金融 (3) 貯蓄と投資の意義 (4) わが国における貯蓄と投資の動向 (5) 金融市場・資本市場とは (6) 金融市場・資本市場を支える行政組織 (7) 経済の国際化と金融市場・資本市場の課題  (1) 自由な競争と日本的経営 (2) 財務的特質と企業間経営 (3) 雇用慣習の特色 (4) 集団的意思決定 (5) わが国企業経営の課題 (6) 少子高齢化と人口減少の対応 (7) 国民生活の変化への対応 (8) 国際化の進展・規制緩和対応 (9) 情報化社会への対応 (10) 企業の社会的責任とその動向 (12) 企業の社会的責任とコーポレートガバナンス (13) 企業の海外進出の現状 (14) 企業経営の現地化・地域社会への貢献			
学	3節 地域ビジネス事情	(4) わが国の新たなビジネスの現状 (5) 新たなビジネスの参考 (6) 地域ビジネスの動向と地域資源 (7) 地域ビジネスの立案			
評 価 方 法	観点別評価				
	① 関心・意欲・態度 (20点)	② 思考・判断・表現 (30点)	③技能 (20点)	④知識・理解 (30点)	
	授業態度 10点 提出物 10点	授業中の発表 10点 定期考査 20点	定期考査 20点	定期考査 30点	
備考	2月に実施する「商業経済検定」(ビジネス経済B)の取得を目指す				

教科	商業	科目名	財務会計Ⅰ	単位数	4
履修年次	2年次	履修条件	原価計算と同時履修すること		
進路	経済系大学等への進学希望者・事務系等への就職希望者				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務諸表の作成に関する知識と技術を習得し、財務会計の意義や制度について理解する。</li> <li>・会計情報を活用する能力と態度を育む。</li> <li>・実社会へのつながりを考えながら取組み、学びの大切さを理解する。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	1 財務会計の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業会計の意義と役割</li> <li>・財務会計の機能</li> <li>・会計法規と会計基準</li> </ul>			
	2 貸借対照表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資産</li> <li>・負債</li> <li>・純資産</li> <li>・貸借対照表の作成</li> </ul>			
2 学期	3 損益計算書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・損益計算の意味と損益の区分</li> <li>・収益・費用の認識と測定</li> </ul>			
	4 連結財務諸表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連結財務諸表の目的と連結の範囲</li> <li>・連結財務諸表作成の基礎</li> </ul>			
	5 財務諸表活用の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務諸表分析の意義</li> <li>・財務諸表の見方</li> </ul>			
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国商業高等学校協会主催 簿記実務検定（会計部門）の受験を目指す。</li> <li>・日本商工会議所主催 簿記検定2級の受験を目指す。</li> </ul>				
評価 方法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (10点)	②思考・判断・表現 (30点)	③技能 (20点)	④知識・理解 (40点)	
	授業態度・提出物 10点	グループワーク 10点 定期考査 20点	定期考査 20点	定期考査 40点	
備考	1年次で学んだ簿記を、さらに学びたいという「意欲」を持つ生徒に履修してもらいたい。				

教科	商業	科目名	財務会計Ⅱ	単位数	4
履修年次	3年次	履修条件	2年次に財務会計Ⅰ・原価計算を履修した生徒		
進路	商業・経済系大学等への進学希望者 事務系等への就職希望者				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>財務会計に関する知識と技術を修得させ、会計責任を果たすことの重要性について理解させるとともに、会計情報を提供し、活用する能力と態度を育てる。</li> <li>全商財務会計検定・日商簿記検定2級・全商簿記実務検定（未取得者）を目指す。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	1 財務会計の基本概念と会計基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>財務報告の目的</li> <li>資産負債アプローチと収益費用アプローチ</li> <li>会計基準の国際的統合</li> </ul>			
	2 財務会計の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>資産会計</li> <li>負債会計</li> <li>純資産会計</li> <li>リース会計</li> <li>税効果会計</li> </ul>			
2 学期	3 企業活動の展開と財務会計	<ul style="list-style-type: none"> <li>外貨換算会計</li> <li>キャッシュフロー会計 キャッシュフロー計算書の意義と必要性 キャッシュフロー計算書の作成手続き</li> </ul>			
	4 企業結合の会計	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業結合会計</li> <li>連結財務諸表の作成</li> </ul>			
	5 財務諸表の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>財務諸表の活用 企業グループの現状把握 株価の判断材料 企業価値の計算</li> </ul>			
3 学期	6 監査と職業会計人	<ul style="list-style-type: none"> <li>監査と職業会計人 二つの法律と監査の仕組み 財務諸表監査の目的とリスク・アプローチ 職業会計人の社会的役割と倫理</li> </ul>			
評価 方法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (10点)	②思考・判断・表現 (20点)	③技能 (30点)	④知識・理解 (40点)	
	授業態度・提出物 10点	定期考査 20点	定期考査 20点 小テスト 10点	定期考査 40点	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年次に財務会計Ⅰ・原価計算の講座に対し、興味を持って学んだ生徒の履修を望む。</li> <li>12月の全商財務会計検定を全員受験する。</li> <li>希望者は、日本商工会議所主催簿記検定2級を受験する。(6月・11月・2月実施)</li> </ul>				

教科	商業	科目名	原価計算	単位数	4
履修年次	2年次	履修条件	財務会計Ⅰと同時履修すること		
進路	経済系大学等への進学希望者・事務系等への就職希望者				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次に学習した簿記を基礎に、製造業に用いられる簿記について理解するとともに、様々な製造原価の計算方法を身につける。</li> <li>・日商簿記検定2級、全商簿記実務検定1級を目指す。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	第1章 工業簿記の内容	1 工業簿記の特色			
	第2章 製造原価の費目別計算	2 原価と原価計算			
	第3章 個別原価計算	3 工業簿記の仕組み			
		4 材料費の計算と記帳			
		5 労務費の計算と記帳			
		6 経費の計算と記帳			
		7 個別原価計算と原価元帳と製造勘定			
		8 製造間接費の配賦			
		9 製造間接費の予定配賦			
		10 仕損品・作業くずの処理			
		11 部門月計算と記帳			
		12 製造部門費の予定配賦			
2 学 期	第4章 総合原価計算	13 総合原価計算と月末仕掛品の評価			
	第5章 製品の完成と販売	14 単純総合原価計算			
	第6章 決算	15 等級別総合原価計算			
		16 組別総合原価計算			
	第7章 工場会計の独立	17 工程別総合原価計算			
		18 副産物・作業くずの処理			
		19 製品の完成と販売の処理			
		20 決算			
		21 財務諸表			
		22 工場会計の独立			
3 学 期	第8章 原価の管理	23 標準原価計算			
		24 直接原価計算			
評 価 方 法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (10点)	②思考・判断・表現 (30点)	③技能 (20点)	④知識・理解 (40点)	
	授業態度・提出物 10点	グループワーク 10点 定期考査 20点	定期考査 20点	定期考査 40点	
備考	1年次で学んだ簿記を、さらに学びたいという「意欲」を持つ生徒に履修してもらいたい。休業中の課題や宿題などの提出物を期限内に提出すること。				

教科	商業	科目名	情報処理	単位数	4	上限人数	35
履修年次	2年次・3年次	履修条件	特になし				
進路	経済系大学等への進学希望者・各種専門学校 事務系等への就職希望者						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得させる。</li> <li>・情報の意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。</li> </ul>						
	単元名	学 習 内 容					
1 学 期	第1章 ビジネスと情報 (1) ビジネスと情報 (2) 情報モラル (3) ハードウェアとソフトウェア  第2章 情報通信ネットワーク (1) 情報通信ネットワークの概要 (2) ビジネス情報の検索と収集 (3) ビジネス情報の受信と発信 (4) セキュリティ管理の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスにおける情報の意義と役割</li> <li>・ビジネスにおけるコンピュータの役割とそのシステム</li> <li>・コンピュータの基本的機能</li> <li>・パソコンのハードウェアとソフトウェア</li> <li>・情報モラルとネチケット</li> <li>・情報通信ネットワークの利用方法</li> <li>・情報通信ネットワークとは</li> <li>・検索エンジンの利用方法</li> <li>・電子メールの利用方法</li> <li>・個人情報の管理と法律</li> <li>・マルウェアの種類と対策</li> <li>・セキュリティ管理とは</li> <li>・インターネット上の犯罪</li> </ul>					
	第3章 ビジネス情報の処理と分析 (1) 表計算ソフトの基礎知識 (2) 表計算ソフトの応用 (3) ビジネスと統計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表計算ソフトの基本操作</li> <li>・発展的な関数の使い方</li> <li>・データベース機能の利用</li> <li>・統計の考え方とデータ分析</li> </ul>					
3 学 期	第4章 ビジネス文書の作成 (1) 文章の表現 (2) 文章の作成 (3) 文書の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすい文章の書き方</li> <li>・文字と文章の入力</li> <li>・通信文書の種類と作成</li> </ul>					
	第5章 プレゼンテーション (1) プレゼンテーションの技法 (2) ビジネスとプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの基本知識と技法</li> <li>・プレゼンテーションソフトの利用</li> <li>・インターネットを活用したビジネス</li> </ul>					
評 価 方 法	観点別評価						
	① 関心・意欲・態度 (20点)	② 思考・判断・表現 (20点)	③ 技能 (10点)	④ 知識・理解 (50点)			
	授業態度・提出物 10点 演習 10点	定期考査 20点	小テスト 10点	定期考査 50点			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月に全国商業高等学校協会主催情報処理検定ビジネス情報部門2級受験する。</li> <li>・1月に1級を全員受験する。資格を利用し大学・専門学校など進路実現を図る。</li> </ul>						

教科	商業	科目名	ビジネス情報	単位数	4
履修年次	3年次	履修条件	2年次に情報処理を履修した生徒		
進路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業・情報系進学から就職まで幅広く対応。</li> <li>・情報系大学・専門学校へは資格取得が効果あり。</li> </ul>				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 情報通信ネットワークの導入やソフトウェアの活用に関する知識と技術を習得する。</li> <li>2 情報を効率的に処理し重要性について理解させるとともに、ビジネスの諸活動においてコンピュータを適切に運用する能力と態度を育てる。</li> <li>3 全商情報処理検定(ビジネス部門)1級・ITパスポート試験合格を目標に学習する。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	1 オフィス業務と情報通信ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の情報化 オフィス業務 エンドユーザコンピューティング</li> <li>・情報通信ネットワークの導入と運用 LANの利用 LANの構築 安定したシステムの構築</li> <li>・データの保護</li> </ul>			
	2 データベースソフトウェアの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスとデータベース データベースの特徴 リレーショナルデータベース</li> <li>・基本的なデータベースの作成 データベースソフトの構成要素 データベースの作成 報告書の作成</li> <li>・発展的なデータベースの作成 データベース設計 リレーショナルデータベース作成 手続きの自動化</li> <li>・SQL</li> </ul>			
2 学期	3 全商情報処理検定対策	重要用語の確認 表計算ソフトによるデータ分析 関数			
	4 表計算ソフトの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの集計・分析 データ集計・分析・シミュレーション</li> <li>・オペレーションズリサーチの基礎 在庫管理 線形計画法 待ち行列</li> <li>・手続きの自動化 マクロの基礎</li> </ul>			
3 学期	5 ソフトウェアを活用したシステム開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルゴリズム アルゴリズム</li> <li>・表計算ソフトウェアの活用 表計算ソフトのプログラミング ユーザフォーム</li> <li>・システム開発 表計算ソフト・データベースを利用したシステム開</li> </ul>			
評価 方法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (20点)	②思考・判断・表現 (20点)	③技能 (30点)	④知識・理解 (30点)	
	授業態度 10点 提出物 10点	小テスト 10点 定期考査 10点	定期考査 30点	定期考査 30点	
備考	情報処理検定(1級ビジネス情報部門)未取得者は受験する ITパスポート試験に挑戦する				

教科	商業	科目名	電子商取引	単位数	4	上限人数	35
履修年次	2年次	履修条件	特になし				
進路	事務系就職希望者 商業系・情報系の学校進学者						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信ネットワークを活用した商取引や広告・広報に関する知識と技術を習得させ、情報通信ネットワークを活用することの意義や課題について理解させるとともに、情報通信技術を電子商取引に応用する能力と態度を育てる。</li> <li>・全商ビジネス文書実務検定1級・2級を目指す</li> </ul>						
	単元名	学 習 内 容					
1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全商ビジネス文書実務検定対策</li> <li>・情報通信技術の進歩とビジネス</li> <li>・コンテンツの制作</li> </ul>	全商ビジネス文書実務検定対策 1 タッチタイピングの技術習得 I 2 ビジネス文書  1 ビジネスの変化 2 情報通信ネットワークの活用と課題  1 ファイルの形式 2 図形 3 静止画 4 動画 5 音声 6 情報の統合					
2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全商ビジネス文書実務検定対策</li> <li>・ウェブページの公開</li> <li>・電子商取引とビジネス</li> </ul>	全商ビジネス文書実務検定対策 1 タッチタイピング技術習得II 2 表、オブジェクト、校正記号を含む文書 3 表、オブジェクト、校正記号、テキストファイルを含む文書  1 ネットワーク機器の種類と機能 2 公開の方法  1 電子商取引の仕組み 2 企業間取引と企業対消費者間取引 3 電子決済のしくみと方法 4 電子商取引システムの作成					
3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文書デザイン作成</li> </ul>	1 図形、オブジェクト等による文書作成 2 プレゼン資料作成					
評価方法	観点別評価						
	① 関心・意欲・態度 (10点)	②思考・判断・表現 (30点)	③技能 (30点)	④知識・理解 (30点)			
	授業態度 10点	提出物 10点 定期考査 20点	実技課題 30点 定期考査 30点				
備考	授業内の課題に意欲的に取り組み、完成させること。						

教科	商業	科目名	電子商取引	単位数	3	上限人数	35
履修年次	3年次	履修条件	特になし				
進路	事務系就職希望者 商業系・情報系の学校進学者						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信ネットワークを活用した商取引や広告・広報に関する知識と技術を習得させ、情報通信ネットワークを活用することの意義や課題について理解させるとともに、情報通信技術を電子商取引に応用する能力と態度を育てる。</li> <li>・全商ビジネス文書実務検定1級・2級を目指す</li> </ul>						
	単元名	学 習 内 容					
1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全商ビジネス文書実務検定対策</li> <li>・情報通信技術の進歩とビジネス</li> <li>・コンテンツの制作</li> </ul>	全商ビジネス文書実務検定対策 ブラインドタッチの習得  1 ビジネスの変化 2 情報通信ネットワークの活用と課題  1 ファイルの形式 2 図形 3 静止画 4 動画 5 音声 6 情報の統合					
2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全商ビジネス文書実務検定対策</li> <li>・電子商取引とビジネス</li> </ul>	全商ビジネス文書実務検定対策  1 電子商取引の仕組み 2 企業間取引と企業対消費者間取引 3 電子決済のしくみと方法 4 電子商取引システムの作成					
3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文書デザイン作成</li> </ul>	図形、オブジェクト等による文書作成					
評価方法	観点別評価						
	② 関心・意欲・態度 (10点)	②思考・判断・表現 (40点)	③技能 (20点)	④知識・理解 (30点)			
	授業態度・提出物 10点	授業中の課題 10点 定期考査 30点	実技課題 20点 (実技試験を課す場合④より20点分を③に付加する)	定期考査 30点			
備考	授業内の課題に意欲的に取り組み、完成させること。						

教科	商業	科目名	プログラミング	単位数	4
履修年次	2年次	履修条件	特になし		
進路	商業系大学進学 専門学校 就職				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミングに関する知識と技術を習得し、プログラムの役割や重要性について学ぶ。</li> <li>・言語ソフトウェアの活用方法を学び、コンピュータの効果的な運用方法を学ぶ。</li> <li>・ビジネスの諸活動においてコンピュータを合理的に活用する能力について学ぶ。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1学期	コンピュータとプログラミング  プログラミング基礎	ビジネスと情報システム <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報とコンピュータ</li> <li>・ビジネスとコンピュータ</li> <li>・情報処理システム</li> <li>・システムの利用例</li> </ul> アルゴリズムの表現技法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・流れ図</li> <li>・トレース</li> </ul>			
2学期	プログラミング基礎  プログラミングの応用	流れ図 <ul style="list-style-type: none"> <li>・合計、平均、最大、最小</li> <li>・条件分岐</li> <li>・繰り返し処理</li> <li>・一次元配列</li> </ul> 流れ図の応用 配列の利用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・配列の考え方</li> <li>・配列の探索</li> </ul>			
3学期	プログラミングの応用  プログラミング実習	配列の利用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・順位付け</li> <li>・並び替え</li> <li>・二次元配列</li> </ul> プログラミング実習			
評価方法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (15点)	②思考・判断・表現 (35点)	③技能 (10点)	④知識・理解 (40点)	
	授業態度 5点 提出物 10点	定期考査 35点	小テスト 10点	小テスト 5点 定期考査 35点	
備考	全国商業高等学校主催情報処理検定（プログラミング部門）1・2級の取得を目指す コンピュータを使用した学習中心ではなく、理論中心の学習になる。 理解の上で受講のこと。				

教科	商業	科目名	ビジネス情報管理	単位数	4
履修年次	3年次	履修条件	2年次にプログラミングか情報処理を履修した生徒		
進路	進学（情報系大学 専門学校）				
学習目標	情報通信ネットワークやビジネス情報システムに関する知識と技術を習得させる。 ビジネス諸活動において情報を管理し、共有することの意義や必要性について理解する。 業務の合理化を積極的に推進する能力と態度を育てる。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	ビジネスと 情報システム	ビジネスと情報の管理 ビジネスと情報共有、ビジネスとICT 情報システムと業務の合理化 情報システムと経営マネジメント 業務の合理化とシステムの実際			
	情報通信ネットワ ークの構築と運用 管理	情報通信ネットワークのしくみと通信方法 インターネットとWAN、LANのアクセス制御方式、通信プロトコル ネットワーク機器 ネットワークインタフェース、LAN間接続装置、インターネットへの接続 情報通信ネットワークの設計 ネットワークの設計手順、ネットワークの導入と運用管理 ハードウェアとソフトウェアの導入			
2 学 期	情報通信ネットワ ークの構築と運用 管理	運用管理 管理ツールやセキュリティポリシーによる運用管理 システム障害や不正アクセス対策 ビジネス向けデバイスの活用とクラウド 携帯端末の活用、クラウドの利用 情報通信ネットワークの構築と運用管理、構成図の作成			
	ビジネス情報シス テムの開発	企業の経営戦略 経営戦略の立案、販売情報・財務情報の分析 システム開発の手法 ソフトウェア開発モデル、オブジェクト指向モデル、プロジェクトマネジメント等 システム開発の手順 ウォータフォールモデル開発、プロトタイプモデル開発 ビジネス情報システムの開発手順等 表計算ソフトとデータベースソフト連携・ウェブサーバ利用システム開発等			
3 学 期	ビジネス情報シス テムの課題と展望	セキュリティ管理 セキュリティ管理の必要性、情報保護の方法 情報システムの課題と展望			
評 価 方 法	観点別評価				
		①関心・意欲・態度 (20点)	②思考・判断・表現 (30点)	③技能 (10点)	④知識・理解 (40点)
	出席・授業態度 20点	小テスト 10点 定期考査 20点	実習・演習 10点	定期考査 40点	
備 考	ITパスポート試験に挑戦する（通年） 情報処理検定（1級ビジネス情報部門）未取得者は受験（9月・1月）				

教科	商業	科目名	会計の基礎	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	意欲のある生徒		
進路	経済系大学等への進学希望者・事務系等への就職希望者 簿記に関する基本的な学習の復習と活用を必要とするもの				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簿記と会計の違いを理解する。</li> <li>・簿記の技術を習得し、会計の知識等を深めるための能力を養う。</li> <li>・グループワークや発表を通し、自らの意見や考えを伝える力を育む。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	現金および預金 3分法と掛け取引 債権と債務	現金・預金と記帳法 商品に関する取引と掛け取引 掛け取引以外の債権・債務			
	手形 有価証券 固定資産	手形意味と役割、手形債権と手形債務 有価証券の取引、利息と配当金 有形固定資産の処理、減価償却			
	貸し倒れ 資本金と引出金	貸倒れとは、貸倒れの見積もりと引当金 資本金、引出金、税金			
	収益と費用	収益・費用の繰延べ・見越し、消耗品			
2 学 期	財務諸表	試算表、棚卸表、精算表、B/S、P/L			
	企業会計 資産・負債・純資産	企業会計の意味・役割・機能 企業会計基準と財務諸表の種類と見方 資産・負債・純資産の意味と分類			
	損益計算	損益計算の意味と収益費用区分 当期純利益計算			
3 学 期	検定学習	日商簿記検定3級へ向けての演習			
	企業の財務諸表を分析する	財務諸表を分析する 企業の利害関係者について			
評 価 方 法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (10点)	②思考・判断・表現 (30点)	③技能 (30点)	④知識・理解 (30点)	
	出席・授業態度 10点	定期考査 20点 提出物 10点	定期考査 30点	定期考査 30点	
備考	日本商工会議所主催 簿記検定3級の取得を目指す生徒は受験する。 財務会計Ⅱを選択する生徒は、履修しないことを勧める。				

教科	家庭	科目名	子どもの発達と保育	単位数	2
履修年次	2年次	履修条件	特になし		
進路	保育・福祉系への進学				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育に関する知識・技術を習得する。</li> <li>・乳幼児の健全な成長に関心を持ち、乳幼児に関わる意欲や能力、実践的な態度を身に付ける。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	子どもの 発達の特徴	①発達と乳幼児の意義 →子どもの発達 乳幼児の特徴 ②発達と保育環境 →発達と保育環境のかかわり 保育環境を整える ③児童観と発達観 →児童観・発達観とは こんにちはの児童観・発達観			
	子どもの 発達過程	①子どもの発育 →胎児の発育 乳幼児の身体的特徴 乳幼児の生理的特徴 発育の評価 ②子どもの精神発達 →運動機能と感覚機能の発達 知的発達 言葉の発達 情緒の発達 ③人間関係の発達 →愛着関係の形成 人間関係の広がり 子どもの人格形成			
2 学期	子どもの生活	①生活と養護 →生活と健康 栄養と食事 食習慣の形成 衣生活と育児用品 ②子どもの遊び →生活と遊び 遊びの援助 ③生活習慣の形成 →生活習慣の意義 基本的生活習慣 社会的生活習慣 ④健康管理と事故防止 →日常の健康管理 病気の看病と予防 事故の防止と応急処置			
	子どもの保育	①保育の意義と重要性 →保育とは 人間形成と保 ②家庭保育と集団保育 →家庭保育 集団保育 ③保育の方法 →保育者の役割とは 指導のポイント			
3 学期	子どもの福祉	①子どもの福祉 →児童福祉の理念 児童福祉に関する法律 児童福祉のための機関・施設 ②子育て支援 →社会的支援の必要性 児童虐待とその予防 これからの子育て支援 子育て支援の課題			
評 価 方 法	観点別評価				
	①関心・意欲・態度 (15点)		②思考・判断・表現 (10点)		③技能 (20点)
	④知識・理解 (55点)				
	授業態度 5点 提出物 10点	定期考査 10点	技術の習得 20点	定期考査 55点	
備考					

教科	家庭	科目名	子ども文化	単位数	2	上限人数	15
履修年次	3年次	履修条件	子どもの発達と保育を履修していることが望ましい				
進路	保育・福祉系への進学						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財に関する知識と技術を習得させ、子ども文化の充実を図る能力と態度を培う。</li> <li>ふれあい育児体験を通して子どもと交流し、学習したことを実践する。</li> </ul>						
	単元名	学 習 内 容					
1 学 期	子ども文化とは何だろう	①子ども文化とは ②子ども文化を歴史から見る →子ども文化の誕生 子ども文化の展開 子ども文化の近代・現代					
	子どもと遊び	①あそびと発達 ②遊びの現状 ③遊びと遊具・玩具 ④遊びと伝承					
	子ども文化実習	①子どもと関わる前に ②遊びの観察と子ども理解					
	音楽・身体表現活動実習	①手遊び・歌遊び・リトミック					
2 学 期	子どもと表現活動	①子どもの表現活動の面白さ ②造る・描く ③言語表現活動 ④歌う、踊る、演奏する ⑤表現活動の実際					
	子どもと文学	①語り ②紙芝居 ③絵本 ④児童文学 ⑤アニメーション					
	現代の子どもの生活と文化	①テレビ・キャラクター・ゲーム ②子どもと年中行事					
	児童文化財の製作発表	ペープサート、人形劇、紙芝居等の製作・練習・発表					
3 学 期	子ども文化を支える場	①行政による公的な支え方 ②民間企業による支え方 ③子どものための各種施設 →児童図書館・家庭文庫 美術館・児童文学館・絵本美術館 プラネタリウム・科学館・天文台 動物園・水族館・博物館・公園 博物館・郷土館・歴史館 人形玩具ミュージアム・人形劇場					
	造形表現	画用紙、クレヨン、折り紙を使用した造形製作					
評 価 方 法	観点別評価						
	①関心・意欲・態度 (15点)		②思考・判断・表現 (10点)		③技能 (25点)		④知識・理解 (50点)
	授業態度 5点 提出物 10点	定期考査 10点	技術の習得 20点 創意工夫 5点	定期考査 50点			
備考	全ての作品が提出していることが単位修得の条件となる。						

教科	家庭	科目名	生活と福祉	単位数	2	上限人数	20
履修年次	2年次	履修条件	特になし				
進路	保育・福祉・看護医療系への進学 福祉・看護関係の就職						
学習目標	・高齢者の健康と生活、介護などに関する知識と技術を習得し、高齢者の生活の質を高めるとともに、自立生活支援と福祉の充実に寄与する能力と態度を培う。						
	単元名	学 習 内 容					
1 学期	人の一生と 生活・健康  高齢化の現状と 高齢者の特徴	①健康の概念 →健康とは 高齢社会におけるQOL 健康に影響を及ぼす要因 ②ライフステージと健康管理 →ライフステージと健康 生活習慣と健康  ①高齢化の現状 →人口の高齢化 家族・地域の変化 ②高齢者の心身の特徴と病気 →高齢者の心身の特徴 高齢者の病気 ③高齢者の生活課題と施策 →高齢者の生活課題 高齢社会に対する施策					
2 学期	高齢者の 自立生活支援  介護・看護の 実習と生活支援	①自立生活支援の基本となる考え方 →尊厳・ノーマライゼーション 自立生活支援の意義 地域包括ケアシステムをめざした地域の役割 ②高齢者介護 →高齢者介護の考え方 麻痺・視聴覚障害・認知症の介護  ①介護の実習 →体位変換 ベッド上の体位変換 歩行介助 車椅子の移乗・移動の介護 食事の介助 ベッドメイキング 衣服の着脱の介助 身体の清潔の介助 排泄の介助 ②看護の実習 →家庭看護の意味 バイタルサイン 口腔の清潔 誤嚥と窒息 転倒と骨折 低温やけど 脱水 熱中症 高血圧と低血圧 糖尿病					
3 学期	高齢者支援の 法律と制度  介護・看護の 実習と生活支援	①社会保障制度と高齢者福祉のあゆみ →社会保障・社会福祉制度のしくみ 高齢者福祉のあゆみ ②介護保険制度 →介護保険制度スタートガイド 介護保険制度のしくみ ③高齢者支援と地域包括ケアシステム →地域包括ケアシステム 高齢者支援を支える制度と課題  ③生活支援 →生活支援の考え方 「衣」の生活支援 「食」の生活支援 「住」の生活支援 高齢者の販売取引トラブル					
評価 方法	観点別評価						
	①関心・意欲・態度 (15点)	②思考・判断・表現 (10点)	③技能 (20点)	④知識・理解 (55点)			
	授業態度 5点 提出物 10点	定期考査 10点	技術の習得 20点	定期考査 55点			
備考							

教科	家庭	科目名	ファッション造形基礎	単位数	2	上限人数	20
履修年次	2年次	履修条件	特になし				
進路	服飾・デザイン系への進学希望者・服飾関係の就職希望者						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッション造形の基礎・基本を学習し、衣生活に必要な被服の知識及び基礎的技術を習得する態度と能力を育てる。</li> <li>・家庭科技術検定(被服製作)3級の取得を目指す。</li> </ul>						
	単元名	学 習 内 容					
1 学期	衣服の構成 衣服の素材  被服製作の基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体構成の衣服と平面構成の衣服</li> <li>・衣服素材の種類 ・衣服素材の性能と選択</li> </ul> 基礎縫い  「家庭科技術検定 被服4級 基礎縫い」の取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシン縫い</li> <li>・手縫い（並縫い・まつり縫い・半返し縫い・ボタン付け）</li> </ul>					
2 学期	洋服の製作  和服の製作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作の基礎（用具・採寸・布地の性質）</li> <li>・「家庭科技術検定3級 アウターパンツ」の取り組み</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和服の素材・和服製作のための用具と基本的な技法</li> <li>・和服「じんべい」の製作               <ul style="list-style-type: none"> <li>・パターンの製作</li> <li>・裁断</li> </ul> </li> </ul>					
3 学期	和服の製作  応用作品の製作	和服「じんべい」の製作 <ul style="list-style-type: none"> <li>・縫製 ・仕上げ</li> </ul> 基礎基本を取り入れた応用作品の製作					
評価 方法	観点別評価						
	①関心・意欲・態度 (15点)		②思考・判断・表現 (5点)		③技能 (40点)		④知識・理解 (40点)
	授業態度 5点 提出物 10点	定期考査 5点	技術の習得 40点	定期考査 40点			
備考	全ての作品が提出されていることが単位修得の条件となる。						

教科	家庭	科目名	ファッション造形	単位数	2	上限人数	20
履修年次	3年次	履修条件	ファッション造形基礎を履修した生徒 被服製作検定3級を取得していることが望ましい。				
進路	服飾・デザイン系への進学希望者・服飾関係の就職希望者						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>被服構成の基礎、構成技法など被服に関する知識と技術を習得し、ファッション製品を創造的に製作する能力と態度を育てる。</li> <li>家庭科技術検定(被服製作)和服2級の取得を目指す。</li> </ul>						
	単元名	学 習 内 容					
1 学期	ファッション造形の要素	立体構成と平面構成 衣服素材の種類					
	和服の製作	平面構成の衣服 「家庭科技術検定和服2級：じんべい」の取り組み					
2 学期	洋服の製作	立体構成の衣服・デザインについて					
	応用作品の製作	基礎基本を取り入れた応用作品「ブラウス」の製作 ・採寸      ・パターンの製作 ・裁断      ・縫製・補正					
3 学期	応用作品の製作	基礎基本を取り入れた応用作品の製作 ・ボトム製作					
	応用作品の製作	基礎基本を取り入れた応用作品の製作 ・ボトム製作					
評価方法	観点別評価						
	①関心・意欲・態度 (15点)		②思考・判断・表現 (5点)		③技能 (40点)		④知識・理解 (40点)
	授業態度 5点 提出物 10点	定期考査 5点	技術の習得 40点	定期考査 40点			
備考	全ての作品が提出されていることが単位修得の条件となる。						

教科	家庭	科目名	服飾手芸	単位数	2	上限人数	20
履修年次	2年次・3年次		履修条件	特になし			
進路	服飾・デザイン系への進学希望者・服飾関係の就職希望者						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手芸の種類、技法などに関する知識と技術を身につけさせ、手芸品を製作する。</li> <li>・手芸の技法を日常生活に取り入れ活用することができる能力を育てる。</li> </ul>						
	単元名	学 習 内 容					
1 学 期	刺し子	花ふきんの作成（運針の技術習得） ・ 図案を写す ・ 刺し子 ・ 仕上げ					
	パッチワーク	ポーチの作成 ・ パッチワークの手法で20×25cmの布を製作 ・ キルティングの製作 ・ ファスナーの付け方					
2 学 期	刺しゅう	刺しゅう技術の習得  10種類以上の刺しゅうを使って、ランチョンマットの製作					
	バッグ	裏地付きトートバッグの製作					
3 学 期	バネ口金のポーチ	キルティングの製作 バネ口金を使用した小物入れの作成					
	ペーパークラフト	クラフトバンドを使用したかごの製作					
評 価 方 法	観点別評価						
	①関心・意欲・態度 (30点)		②思考・判断・表現 (10点)		③技能 (50点)		④知識・理解 (10点)
	授業態度 15点 提出物 15点	創意工夫 10点		技術の習得 40点 定期考査 10点		定期考査 10点	
備考	全ての作品が提出されていることが単位修得の条件となる。						

教科	家庭	科目名	フードデザイン	単位数	2	上限人数	24
履修年次	2年次・3年次	履修条件	3年次講座は、2年次でフードを履修した生徒は選択できない。また、食品・食文化と同時履修はできない				
進路	栄養・調理系への進学 調理関係の就職						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>心身ともに健康な生活を営むためには欠かせない「食事」の意義と役割について理解するとともに、栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートに関する知識と技術を身につけ、自ら食事を調える能力と態度を育てる。</li> <li>家庭科技術検定(食物調理)3級の取得を目指す。</li> </ul>						
	単元名	学 習 内 容					
1 学期	食生活と健康 栄養素の働きと 食事計画 調理の基本:実技 調理実習	①食事の意義と役割 ②食をとりまく現状 ①からだのしくみと食べ物 ②炭水化物 ③脂質 ④たんぱく質 ⑤ビタミン ⑥ミネラル ⑦水 家庭科技術検定(食物調理)4級に向けて 日常食					
2 学期	栄養素の働きと 食事計画 調理の基本:理論 調理の基本:実技 調理実習	⑧消化と吸収 ⑨食事摂取基準と食事計画 ⑩ライフステージと栄養計画 ①調理とおいしさ ②調理操作 ③調味操作 家庭科調理検定(食物調理)3級に向けて 日常食、行事食					
3 学期	料理様式と テーブルコーディネート フードデザイン 実習 食育 調理実習	①料理様式と献立 →日本料理 西洋料理 中国料理 ②テーブルコーディネート ①献立作成 ①食育の意義と推進活動 日常食、行事食					
評 価 方 法	観点別評価						
	①関心・意欲・態度 (15点)		②思考・判断・表現 (10点)		③技能 (25点)		④知識・理解 (50点)
	授業態度 5点 提出物 10点	定期考査 10点	技術の習得 25点	定期考査 50点			
備考							

教科	家庭	科目名	食文化	単位数	2	上限人数	24
履修年次	3年次	履修条件	フードデザイン・食品と同時履修はできない				
進路	栄養・調理系への進学 調理関係の就職						
学習目標	・食文化の成り立ち、日本と世界の食文化などに関する知識と技術を習得させ、食文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を育てる。						
	単元名	学 習 内 容					
1 学 期	食文化の 成り立ち	①食生活の移り変わりとその特徴 ②食習慣の変化					
	日本の食文化	①食生活の変遷 ②日常食・行事食・郷土料理 ③料理様式の発展					
	調理実習	①日常食 ②行事食 ③郷土料理					
2 学 期	世界の食文化	①世界の料理の特徴と文化 ②食生活の国際化					
	食文化の伝承と 創造	①食文化の伝承の重要性 ②新しい食文化を創造する意義					
	調理実習	①日常食 ②行事食 ③郷土料理					
3 学 期	食文化の未来像	①日本の食環境 ②食料自給率 ③食文化の未来像					
	調理実習	①日常食 ②行事食 ③郷土料理					
評 価 方 法	観点別評価						
	①関心・意欲・態度 (15点)		②思考・判断・表現 (10点)		③技能 (25点)		④知識・理解 (50点)
	授業態度 5点 提出物 10点		定期考査 10点		技術の習得 20点 創意工夫 5点		定期考査 50点
備考							

教科	家庭	科目名	食品	単位数	2	上限人数	24
履修年次	3年次	履修条件	フードデザイン・食文化と同時履修はできない				
進路	栄養・調理系への進学 調理関係の就職						
学習目標	・食品の分類とその特徴、食品の表示、食品の加工と貯蔵などに関する知識と技術を習得させ、食品を適切に選択、活用して食生活の充実向上をはかる能力と態度を育てる。						
	単元名	学 習 内 容					
1 学期	食品の特徴  実験・実習	食品の特徴と性質Ⅰ →穀類 いも類 砂糖類 豆類 種実類 野菜類 果物類 きのこと類 海藻類 魚介類 肉類 卵 牛乳・乳製品 油脂類 寒天・ゼラチン 嗜好食品 調味料・香辛料 加工食品と加工方法 特別用途食品と保健機能食品  食品の調理性に関わる実験・調理実習					
2 学期	食品の特徴  食品の表示  食品の加工と貯蔵  実験・実習	食品の特徴と性質Ⅱ →穀類 いも類 砂糖類 豆類 種実類 野菜類 果物類 きのこと類 海藻類 魚介類 肉類 卵 牛乳・乳製品 油脂類 寒天・ゼラチン 嗜好食品 調味料・香辛料 加工食品と加工方法 特別用途食品と保健機能食品  ①食品の表示制度 ②各種食品の表示  ①食品の加工 ②食品の貯蔵  食品の調理性に関わる実験・調理実習					
3 学期	食品の生産と流通  実験・実習	①食品の流通と食糧需給 ②食品の流通機構  食品の調理性に関わる実験・調理実習					
評価 方法	観点別評価						
	①関心・意欲・態度 (15点)		②思考・判断・表現 (10点)		③技能 (25点)		④知識・理解 (50点)
	授業態度 5点 提出物 10点	定期考査 10点	技術の習得 20点 創意工夫 5点	定期考査 50点			
備考							

教科	福祉活動	科目名	ボランティア実践	単位数	2	上限人数	20	
履修年次	3年次	履修条件	特になし					
進路	保育・福祉・看護・医療系への進学 就職							
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動に関する基礎的な知識を習得する。</li> <li>・実践活動を通してボランティアに対する理解を深め、自主的な活動へとつなげるきっかけとする。</li> </ul>							
	単元名	学 習 内 容						
1 学 期	刈エンテーション	ボランティアとは何か						
	福祉・ボランティア活動について	SDGsについて、テーマを絞りグループ学習を行って発表する 12：作る責任、使う責任						
	清掃活動	学校周辺、通学路の清掃						
	点字の学習	外部講師による点字の学習 ①点字の成り立ち ②50音 ③濁音・拗音・拗濁音・長音 ④視覚障がい者への理解						
	ボランティア活動実践	夏季休業中の実践にむけて活動の計画						
2 学 期	ボランティア活動実践	夏季休業中の実践活動のまとめと報告						
	福祉・ボランティア活動について	様々なボランティア活動を知る 現代の福祉問題についてグループ学習を行い発表する						
	手話の学習	外部講師による手話の学習 ①聴覚障がい者への理解 ②指文字 ③あいさつ ④⑤単語 ⑥⑦会話 ⑧発表						
	清掃活動	学校周辺、通学路の清掃						
	高齢者との交流	地域の高齢者との交流						
3 学 期	福祉・ボランティア活動について	様々なボランティア活動を知る、現代の福祉問題について考える						
	清掃活動	校内清掃						
評 価 方 法	観点別評価							
	①関心・意欲・態度 (15点)		②思考・判断・表現 (10点)		③技能 (25点)		④知識・理解 (50点)	
	授業態度 5点 提出物 10点	定期考査 10点	技術の習得 20点 創意工夫 5点	定期考査 50点				
備考	夏季休業中にボランティア活動実践を行うことが単位取得の条件となる。							

教科	総合的な探究の時間		単位数	1
履修年次	2年次	履修条件	必履修	
進路	特になし			
学習目標	他者の意見を聞き、協力しながら自分の意見をまとめ伝えることができる。 進路実現に向けて、論理的に考えることができる。			
	単元名	学 習 内 容		
1 学 期	進路設計① 社会研究① 進路設計② 社会研究② 進路探究③	1年間の計画 地域探究（調べ学習） 科目選択ガイダンス 地域探究（発表等） 1学期の振り返り		
2 学 期	社会研究③ 自己表現① 自己表現② 進路探究④	マナー講座 わだやマーケットに向けて（模擬販売実習等） わだやマーケット振り返り 2学期の振り返り		
3 学 期	進路探究⑤ 進路探究⑥ 進路探究⑦	次年度に向けて（課題設定） 3年次講話（生徒・教員） 1年間の振り返り		
評 価 方 法	◎ 観点別評価 ①知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③学びに向かう力、人間性等  3観点を基に複数の目で行動観察等から評価をする。			
備 考				

教科	総合的な探究の時間	講座名	経営経済学(わだやマネジメント)	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	必履修		
進路	特になし				
学習目標	地域の経営・経済学に関する分野で自ら課題を発見し、課題解決に向けてチームで協力して取り組む姿勢や、判断力、表現力、発信力、積極性、探究心を育む。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	地域の課題について  経営者との対話  市役所への提言	課題に対する解決策やそれに伴う問題点について考える  地域で活躍する経営者と対話し、経営的な視点から地域の課題解決を考える  高校生目線で考える地域の課題とそれに対する課題解決策をまとめ、朝来市役所へ向けて提言する			
2 学期	地域へ向けた映像発信  わだやマーケット発表  わだやマーケット分析	地域をよりよくするというコンセプトで映像作品を作成し、地域に向けて発信する  これまでの活動成果について発表する  わだやマーケットを経営的な視点から分析し、イベント経営のあり方について客観的に考察する			
3 学期	映像発信の結果分析  わこうLab。発表会	映像発信に対しての意見を集約し、改善点などを考察する  これまでの活動成果について発表する			
評価方法	◎ 観点別評価 ①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度 の3観点を基に複数の目で行動観察から評価をする。				
備考	必要備品を購入する場合に、学年費から徴収する場合があります				

教科	総合的な探究の時間	講座名	社会学(トレジャーステーション)	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	必履修		
進路	特になし				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に眠っている魅力を高校生の視点から発掘し、まちの活性化の一役を担う</li> <li>・自ら課題を発見し、課題解決に向けてチームで協力して取り組む姿勢や、判断力、表現力、発信力、積極性、探究心を育む。</li> </ul>				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	<p>オリエンテーション</p> <p>和田山駅前の活性化について</p> <p>特産品について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッション「朝来市における課題」</li> <li>・和田山駅前の現地調査（フィールドワーク）</li> <li>・特産品「朝来みどり」について知る（フィールドワーク）</li> </ul>			
2 学 期	<p>駅前活力アップ計画</p> <p>わだやマーケット</p> <p>朝来市魅力再発見のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和田山駅前に人流をつくる取り組みを考える</li> <li>・活力が出るようなイベントを計画・実施する</li> <li>・オリジナルレシピの発表（プレゼンテーション）</li> <li>・展示・発表・物販内容決定</li> <li>・振り返り・改善案の提案</li> <li>・グループディスカッション</li> <li>・1年間のまとめ</li> </ul>			
3 学 期	発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会に向けて準備</li> <li>・発表会      ・今年度の振り返り</li> </ul>			
評価 方法	<p>◎ 観点別評価</p> <p>①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度 の3観点を基に複数の目で行動観察から評価をする。</p>				
備考	必要備品を購入する場合に、学年費から徴収することあり				

教科	総合的な探究の時間	講座名	保健・福祉学	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	必履修		
進路	特になし				
学習目標	地域の防災・子育て・福祉に関する分野で自ら課題を発見し、課題解決に向けてチームで協力して取り組む姿勢や、判断力、表現力、発信力、積極性、探究心を育む。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	地域の課題について	課題に対する解決策やそれに伴う問題点について考える。			
	地域の防災	地域の防災についての理解を深め、ハザードマップを作成する。			
	地域の福祉	福祉についての理解を深める。車いす体験。			
	和田山特別支援学校交流①	和田山特別支援学校に赴き、交流を行う。			
2 学 期	地域の子育て	和田山子育て支援センターにて、自由遊びに来る子どもを対象に自分たちで考えた遊びを実施する。			
	和田山特別支援学校交流②	和田山特別支援学校の生徒に来校してもらい、交流を行う。			
	わだやマーケット発表	これまでの活動成果について発表する。			
	わだやマーケット分析	わだやマーケットを経営的な視点から分析し、イベント経営のあり方について客観的に考察する。			
3 学 期	発表会に向けて	効果的な発表の仕方を学び、発表会に向けて準備を行う。			
	わこうLab。発表会	これまでの活動成果について発表する。			
評価方法	◎ 観点別評価 ①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度 の3観点を基に複数の目で行動観察から評価をする。				
備考	必要備品を購入する場合に、学年費から徴収する場合があります				

教科	総合的な探究の時間	講座名	自然・農学	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	必修		
進路	特になし				
学習目標	地域の自然環境の豊かさを体験することで、但馬地域で生活することの誇りを感じ、但馬地域の自然環境を守り育てていこうとする態度を育てる。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	オリエンテーション				
	農業実習	クループワーク 1期計画 サツマイモ等の苗植え実習			
	河川環境調査	フィールドワーク 河川での環境・魚類層の把握(市川)			
2 学 期	オオサンショウウオについて	オオサンショウウオに関する出前講座受講 オオサンショウウオについての調べ学習			
	河川調査	フィールドワーク 河川での環境・魚類層の把握(ようど川)			
	農業実習	グループワーク 2期計画			
	わだやマーケット準備	展示・発表・販売など準備			
3 学 期	わだやマーケット振り返り	振り返り・改善案の提案			
	総合学科発表会の準備	今年度の学習のまとめ・発表準備			
評価方法	◎ 観点別評価 ①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度 の3観点を基に複数の目で行動観察から評価をする。				
備考	必要備品を購入する場合に、学年費から徴収することあり				

教科	総合的な探究の時間	講座名	国際・文化・コミュニケーション	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	必履修		
進路	特になし				
学習目標	自ら課題を発見し、課題解決に向けてチームで協力して取り組む姿勢や、判断力、表現力、積極性、探究心を育む。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学 期	オリエンテーション	思考実験・グループディスカッション・プレゼンテーション			
	課題解決に向けての取組み	課題検討、課題解決法の考察			
	交流事業①	伊川谷高校との交流			
	オープンハイスクールに向けての取組み	ポスター作りなど			
2 学 期	交流事業②	海外との交流			
	交流事業③	芸術文化観光専門職大学との交流			
	わだやマーケット準備	わだやマーケット展示・発表・物販内容決定			
	わだやマーケット振り返り	振り返り・改善案の提案			
3 学 期	3年次総合的な探究の時間発表に向けて	発表準備			
		発表会 今年度の振り返り			
評価方法	<p>◎ 観点別評価</p> <p>①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度 の3観点を基に複数の目で行動観察から評価をする。</p>				
備考	必要備品を購入する場合に、学年費から徴収することあり				

教科	総合的な探究の時間	講座名	人間科学・教育	単位数	2
履修年次	3年次	履修条件	必履修		
進路	すべての進路に対応				
学習目標	あさご芸術の森美術館と共同して、朝来市の活性化について考える。また、発見した課題を多角的に考えることで、自発的に知見を深める。				
	単元名	学 習 内 容			
1 学期	オリエンテーション  地域課題について  課題解決に向けて	地域の課題の発見  外部講師等からの聞き取り  グループワーク			
2 学期	体験学習  課題解決に向けて  わだやマーケット準備	地域FW等  グループワーク  体験・発表など準備			
3 学期	わだやマーケット振り返り  校内発表  総合的な探究の時間の反省	・振り返り  ・実践内容を発表する。  ・今年度の振り返り			
評価 方法	◎ 観点別評価 ①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度 の3観点を基に複数の目で行動観察から評価をする。				
備考	必要備品を購入する場合に、学年費から徴収することあり				